
平成25年 第1回(定例)由布市議会会議録(第2日)

平成25年3月1日(金曜日)

議事日程(第2号)

平成25年3月1日 午後1時30分開議

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

出席議員(19名)

1番 鷺野 弘一君	3番 甲斐 裕一君
4番 長谷川建策君	5番 二ノ宮健治君
6番 小林華弥子君	7番 高橋 義孝君
8番 新井 一徳君	9番 佐藤 郁夫君
10番 佐藤 友信君	11番 溝口 泰章君
12番 西郡 均君	13番 湊野けさ子君
14番 太田 正美君	15番 佐藤 正君
16番 佐藤 人已君	17番 田中真理子君
18番 利光 直人君	20番 工藤 安雄君
21番 生野 征平君	

欠席議員(1名)

2番 廣末 英徳君

欠 員(2名)

事務局出席職員職氏名

局長 秋吉 孝治君	書記 江藤 尚人君
書記 三重野鎌太郎君	書記 伊藤 裕乃君

説明のため出席した者の職氏名

市長	首藤 奉文君	副市長	島津 義信君
教育長	清永 直孝君	総務部長	佐藤 式男君
総務課長	麻生 正義君	財政課長	梅尾 英俊君
総合政策課長	溝口 隆信君	人事職員課長	森山 金次君
防災安全課長	御手洗祐次君	会計管理者	佐藤 忠由君
産業建設部長	工藤 敏文君	農政課長	平松 康典君
建設課長	麻生 宗俊君	水道課長	秋吉 一郎君
健康福祉事務所長	衛藤 義夫君	福祉対策課長	衛藤 哲雄君
子育て支援課長	小野 啓典君	小松寮長	一法師恵樹君
健康増進課長	河野 尚登君	保険課長	田中 稔哉君
環境商工観光部長	相馬 尊重君	商工観光課長	平井 俊文君
挾間振興局長	志柿 正蔵君	庄内地域振興課長	工藤 敏君
湯布院振興局長	松本 文男君	教育次長	森山 泰邦君
教育総務課長	日野 正彦君	学校教育課長	江藤 実子君
スポーツ振興課長	生野 隆司君	消防長	大久保一彦君

午後 1 時 30 分開議

○議長（生野 征平君） 皆さん、こんにちは。議員及び市長初め執行部各位には、本日から本会議が続きますが、よろしくお願ひ申し上げます。

ただいまの出席議員数は 19 人です。廣末英徳議員から、所用により欠席届が出ております。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

執行部より、市長、副市長、教育長、各部長及び関係課長の出席を求めています。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程第 2 号により行います。

一般質問

○議長（生野 征平君） これより日程第 1、一般質問を行います。

質問者の持ち時間は、質問・答弁を含め 1 人 1 時間以内となっております。質問者、答弁者とも簡潔に、また節度ある発言をお願いいたします。

それでは、通告制になっておりますので、順次質問を許可します。

まず、9 番、佐藤郁夫君の質問を許します。佐藤郁夫君。

○議員（9 番 佐藤 郁夫君） 皆さん、こんにちは。暦の上では立春を過ぎたと言え、まだまだ

朝晩含めて肌寒い日もあります。しかしながら、梅の花も満開に咲いて、だんだんと春らしくな
ってまいりました。正月が来たと思ったらもう3月に入りました。月日のたつのは早いものであ
ります。

ところで、大人と子どもは代謝の違いで、時間の感覚が異なるらしいということでもあります。
新たな経験をすると時間は遅く感じると聞きますし、子どものころは1年が長かったように感じ
ました。今年は、時間を遅く感じるような新鮮な発見や経験もしてみたいなと思いますけれど、
なかなかそうもいかないのかなと、そういうふうには思っていますし、由布市も合併いたしまして
はや8年目となりました。市民の間にも、ふれあい事業等によりまして融和もできたように思い
ますし、協働による取り組みも徐々にではありますが広まってきたかなと感じるところでありま
す。しかし、まだまだ多くの課題が市政は山積をしている、そういうふうには思っていますし、
今後も皆さんと一緒にまちづくりをしなきゃならない、そういうふうには思っています。さて、
春の訪れを告げます県内一周大分合同駅伝大会も終わりました。由布市は躍進第4位となり、昨
年より順位を上げたものの、A部復帰はしませんでした。選手全員が一丸となって、郷土由布
市のためにたすきをつなぎ頑張ってくれました。ほんとにありがとうございました。役員の方々
を初め関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

本日、午前中に由布高校の卒業式がありました。特に、式に入場するときに、我々来賓で議長
や市長、何人か、教育長もそうですが、新井議員もそうですが、出席をされていましたが、卒業
生が会場、体育館に入るのにずっと並んでいるんです。私、大概出席をさせていただいていまし
て、最近特に感じますのは、もうこちらから言うもなく、向こうのほう、生徒のほうから大きな
声で「こんにちは」、にこやかにかけていただいて、ああ、もうこれは由布高校は変わったんだ
なというのは、そのとき少し思いました。

そして式に臨んで、卒業生が入ってこられて、142名の方が卒業されました。全体を見ます
と、非常にマスクは1人もしていません。みんなせき一つもしていません。在校生もそうですが、
非常にきちっとされたすばらしい、厳粛な中にも立派な卒業式であったな。ほんとに感じたわけ
であります。

特に由布高校が中高一貫教育校となって、大学への進学では、国公立大学にも何人も合格する
ようになりましたし、就職面では、市役所や東京消防局などに入り、実績を確実に積み上げてき
ております。すばらしい高校に生まれ変わっているということを私自身実感をしていたしました。

ただ、本年ありましたように、来年度から1学級減らされるというのは非常に寂しい状況であ
りますし、今後とも由布高校さらなる発展を願いたいな、そういう気持ちで午前中に行きました。
皆さんと一緒に由布高校を育てていってほしい、そういう願いでありました。

前置きはこのぐらいにいたしまして、早速質問に入りますが、9番、佐藤郁夫です。議長の許

可をいただきましたので、大きく2点につきまして一般質問させていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、1点目の、市長の8年間の行政評価と今後の目標についてでございますが、市長としてこれまで8年間、市政のかじ取りをされてきたが、どのように自分自身の自己評価をしているのか、今後はどのような課題があると認識されているのか。また、本年10月には市長選、市議選も実施される予定になっておりますが、3期目の選挙に出馬されるのかお尋ねをいたします。

続きまして、大きな2点目でございます。由布高校のことで関連をしますが、中高一貫教育を核として、次世代育成についてであります。現代社会では、少子高齢化が大変問題となっております。由布市も例外ではありません。これからは地域の将来を見通し、地域の次世代を担う若者を大事に育て、地域に戻れる環境づくりを早急に行う必要があると思います。幼小中高が連携することや、保護者と教職員との連携、そして地域の支援を密にして、地域の将来を任せる人材を育成するため、中高一貫教育を核として、あらゆる施策を実行していくしかないと考えておりますので、次のことについてお伺いしますが、質問事項は細部にわたっております。大きな項目のみこの場で質問して、あとは通告しておりますので、そういうことでよろしく対応方お願ひしたいと思ひます。

1点目として、学校間の連携と地域の支え。2点目として、地域のニーズに合った環境整備を。3点目として、市の各課の連携で次世代育成政策をしてほしいということでありまして、4点目として、子育て環境整備。特にこの項につきましては子育て世代のための市営住宅の確保が何と云うたって大事だろうと思ひますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

以上、大きく2点質問しますので、どうぞ明快な御答弁をお願ひして、再質問につきましては本席からさせていただきます。よろしくお願ひします。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 皆さん、こんにちは。本年度3月議会の一般質問の初日でございますが、本質問の内容の中にもございますけれども、私もきょうは由布高校の卒業式に参加をし、そしてまた祝辞を述べさせていただきましたが、今まで由布高校にそういういろんな行事にも行きましたけれども、ほんとに生徒たちがすばらしいという実感をほんとに受けました。挨拶はもちろんですけれども、その中身が、答辞・送辞に代表されていると思ひましたけれども、在校生の送辞につきましても、非常にレベルの高い送辞であったと思ひますし、答辞にしても大変レベルの高い答辞でありました。やっぱり国公立大学にたくさん合格するようになった生徒だけあって、中身も大変レベルが高くなっているなという実感を受けて、私自身も大変うれしく思っているところでありますし、これからもまたそういう成長を大いに期待したところであります。

以上、報告であります。それでは、9番、佐藤郁夫議員の御質問にお答をいたします。

最初に、私の8年間の自己評価ということではありますが、私は、就任当初から、融和・協働・発展を基本理念として市政執行に全力を尽くしてきたつもりであります。市長就任後には、由布市の基本指針となる総合計画の策定をさせていただきました。まちづくりには市民が主体的に参加することが必要であるとの思いから、住民自治基本条例を制定いたしました。市民の皆さんにはもちろん、由布市にかかわる全ての方々のおかげをもちまして融和の広がりや協働の動きが全市で広がったのではないかと考えております。

また、合併当時大変に疲弊しておりました市財政の建て直しと財政基盤の確立に向けては、大変急務でありましたので、行財政改革に全力を注ぎ改革を徹底してきたところであります。

現在、その行革目標に掲げました財政調整基金への積み立てと職員数の削減につきましては、ほぼその達成に近づいてまいったというふうに思っております。

また、非常に厳しい財政の中でありましたけれども、未来を担う子どものためには、市内の学校施設の建てかえあるいは耐震化を進めるとともに、由布市独自の中高一貫教育を推進してまいりましたし、その成果も徐々にあらわれてまいっております。また、県内で一番低い保育料や子どもの医療費の補助充実といった子育て支援策も展開をしてまいりました。

加えて、近年は災害や犯罪が多発いたしまして、心もとない時代となっておりますので、市民が安心・安全に暮らせるための防犯あるいは防災事業の取り組みにも力を入れてまいりました。

低迷する日本経済のもとで、地域経済対策として雇用対策や地場中小企業対策を予算に盛り込むとともに、地産地消事業や特産品のブランド化への積極的な取り組み、農道整備や畜産施設といった農業振興にも努めてまいりました。向原別府線を初めとする幹線道路の整備や公園の整備、上水道施設といった住環境整備、由布市景観条例を制定するなどの景観行政、観光基盤の整備や情報発信事業にも積極的に取り組んでまいったところであります。市民の皆様の御要望にさまざまな課題に精いっぱい取り組んでまいったところでありまして、自分ではかなり充実した取り組みができたというふうに考えております。

今後とも新たな時代を見据えて、何事にもチャレンジする強い心を持って、由布市の発展と、そして住みよさ日本一の由布市づくりに邁進していく決意であります。

今年10月の市長選に出馬されるのかということですが、これまで2期8年間に取り組んできたことが徐々に実を結ぼうとしておりますが、合併後7年半が経過しても、まだまだ諸課題が残されております。そのことから、その解決に向けて市民の皆様のお負託が得られるのであれば、引き続き市政を担わせていただき、市民生活向上、魅力あるまちづくりに全力で取り組んでまいりたいと考えておるところでございます。

次に、由布高生の就職先についてではありますが、ハローワークと連携しながら、学校への情報提供が行われるとともに、高校でのキャリア教育を通じて適正な職種の紹介やあっせんが行われ

ております。

子育て世代のための市営住宅の確保についてであります。本年度、市営住宅の長寿命化計画を作成しております。改修や建てかえなど、住宅施策のあり方を取りまとめているところであります。今後、木造住宅の老朽化により廃止される住宅跡地の活用が問題になると考えられることから、子育て世代の住宅についての問題点や市営住宅整備の必要性、効果などを調査研究をして対応してまいりたいと思います。

以上で私からの答弁は終わります。他の質問については教育長より答弁をいたします。

○議長（生野 征平君） 教育長。

○教育長（清永 直孝君） お答えをいたします。

お答えの前に、きょうも、今お話がありました。由布高校の卒業式に参列して、改めて今由布高校の子どもたちが変わってきたということを改めて感じたところです。学校を変えるという主体者はやはり生徒です。その生徒、このように学校内外で見えた変革をできたということは、やはりその由布高の校長以下先生方が一枚岩になって、自分たちで百年の歴史をつくるんだというような意気込みを、情熱をもって日夜教育実践に励んだその成果だろうと思います。

もちろん由布市民の熱い思いが子どもたちにも伝わっているし、議会初め行政が全面的なバックアップをしたのを大いに支えられながら今に至っていると思います。また、これで完成されたという状態ではありませんが、いい方向に非常に変わってきているということは、私の立場としても十分うかがえるし、今後ともこの面でさらに進めていきたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

その質問にお答えをいたしますが、中学校から小学校へ専任の教師を派遣することについてですが、カリキュラムは小学校の課程から中学校へスムーズな連携ができるように計画されています。英語等の専科教員の派遣につきましては、県教育委員会の人事計画に基づき配置されたものです。由布市では、小学校英語活動を行うため、市費のALTを3ブロックに1名ずつ配置し、各小学校で英語活動の指導に当たっていただいております。また、体育に関しては、挾間小学校へ専科教員の配置を行っています。

小中高連携の挨拶運動等の取り組みについて、中学校と由布高校は合同生徒会の活動を中心に清掃活動等の取り組みを進めていますが、小学校やPTAとの連携についてはまだ取り組みは進んでいません。今後は、PTAと情報を提供し、活動の活発化に取り組んでいきます。

次に、教職員の交流についてですが、平成24年度は人権教育の中で年2回市内の保育園、幼稚園、小中学校、由布高校、由布支援学校の教職員が一堂に会し、情報や意見の交換を実施しました。それぞれの立場で由布市の子どもたちの教育に共通する意見等が出され、有意義な研修会になっています。参加された教員からも、さまざまな立場の思いが聞けて参考になったと感想が

出ています。

また、夏に開催される夏季教職員研修会では、小学校、中学校、由布高校の教職員が学力向上の取り組み等について研修を実施しています。

次に、小中高教職員の校種間人事交流についてですが、小中間の人事交流は教職員の希望で過去何回かは小学校・中学校間異動の例があります。高校との人事交流は、高校が県立であること、それから取得している教職員免許状の種類にもより、一市教委の判断で実施できるものではないと考えています。市の取り組みとして、英語と数学の教諭が乗り入れ授業を行うという形で授業交流を行っています。

次に、地域のニーズに合った環境整備の中の奨学金の充実についてですが、奨学金事業につきましては、意欲と能力のある学生等が経済的理由により就学を断念することがなく、安心して学べるよう、制度の周知や充実が重要と考えています。制度の周知につきましては、年度当初に市報、ホームページ等で奨学金募集を行い、広報に努めています。また、平成21年度には、奨学金の償還期間について、貸与期間終了後1年を経過した月から、高校生の場合3年、大学生の場合4年以内に返還しなければならないとされていましたが、返還期間を10年に延長、奨学金の額を高校生の場合7,000円から1万2,000円に増額し、制度の充実を図っています。

次に、知・徳・体、生きて働く基礎基本についてですが、由布市の教育方針には、生きる力の育成として、知としての確かな学力の充実育成、徳としての豊かな心の育成、体としての健やかな体の育成を掲げています。

小・中・高が連携して、学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力、問題解決能力等に含まれた確かな学力を身につけさせることが大切であるという認識のもと、園児、児童生徒の育成に当たることが重要であると考えています。

次に、市各課の連携についてですが、教育総務課では、関係機関と連携して各種の情報の収集とその提供に努め、由布高校が地域の人材育成に貢献できるよう支援を行ってまいりたいと考えています。

次に、スポーツ指導者の育成・確保ですが、由布市には現在スポーツ推進委員が各地域10名、3地域で30名おり、各地域についてスポーツ実技の指導・助言や新しいスポーツの紹介、実技指導等を行っています。

今後、実技指導だけでなく、各種イベントなどの企画・立案・運営に携わるよう、各種研修会への参加や市独自の研修会を実施して、さらなる資質の向上を図っているところです。

以上です。

○議長（生野 征平君） 佐藤郁夫君。

○議員（9番 佐藤 郁夫君） ありがとうございます。

再質問に入ります前に、きょうの新聞にも出ておりました由布高校の志願状況、ある程度市内の中学校ごとというか、旧町ごとの内容というか、そういう数字もわかれば、学校教育課長、教えてください。

○議長（生野 征平君） 学校教育課長。

○学校教育課長（江藤 実子君） お答えいたします。

連携型入試受験者は、市内で84名、1次入試の受験者は3名です。学校ごとには、挟間中が連携型が35名、1次が1名、庄内中学校が連携型が21名、1次試験が2名、湯布院中学校が連携型28名。以上、連携型と1次合わせて87名のものになっております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 佐藤郁夫君。

○議員（9番 佐藤 郁夫君） ありがとうございます。

かろうじて来年が120で、3分の2が81か80ぐらいですね。何とか、きょうの全体の志願状況も2名ですか、上回っておりましたので、何とか県教委も、このままでいけばまた再び2学級にしてなくすという状況はどうかと。それは今のところはできないかなと思いますけれども、非常に厳しい。

確かに、状況は出ております。きょう事務局に調べていただきました。今出生率が本年の1月現在、ちょっと調べていただいたんです。もう驚愕的な数字です。庄内地域に至っては26名しか産まれておりません。湯布院が104名で挟間が155名、総計で285名です。僕らのところに比べると、まあそれは比べるのがどうかと思いますけれども、恐ろしいぐらいの人口減、特に庄内は、このままでいくと12年後は、中学が恐らく26名、まあそれは恐ろしい、背筋がぞっとするような状況であります。したがって、私今回中高一貫教育を核としてという質問を出したのは、今までずっと中高一貫教育で由布高校を何とかと。そういう目の先のことしか言っていませんでしたが、実は、これが私が今危惧している、人がなくなる、特に庄内町におかれましては、今言う26名しかできない、これはもう中学校どころやない、小学校でもどうなるのかなと。だから、市長の答弁にも少しありましたが、思いの中で8年間の状況で、このいろんな重点もしてきましたと言いながら、現実はまだ少子化は止まっていません。これは全国的と言いながらも、何で特に由布市の中でも庄内が人がこんなにいる、またできないんかとかいうのを、やっぱりこの際、きっちり精査もして、議論もしてやっていかないと、これはもう市自体が成り立たなくなる。

ただ、いろんな話を私も聞きます。1つは、京都造形芸術大学の教授の山崎亮先生という方がおるんです。この方が、地方自治の分を含めていろんな学会等でも発表しながら、頑張れという形で出しているのは、「発想を変えれば地域はもっと元気になる」という中で、このわずか

100年で日本の人口は一気に増えてきた。そして次の100年で一気に減る。2100年、あと95年ぐらいですか——したときには、もう90年ぐらいですか。人口は1910年という、明治ですね。と同じく5,000万程度になるだろうと。今後は再び大きなそういう増加の山が来ることは恐らくないだろうと。したがって、人口減は全国的にあるし、仕方ないことでもあるんだけど、日本の今国土の中で生きていくのは、環境容量とかいうのはあるそうなんです、この先生が言われているのは、3,500万人程度が今の日本の定住人口ぐらいでいいんじゃないか。今の1億2,000万人がどうだということは、食料とかを含めてほとんど自給率が何十%しかありませんし、ほとんど輸入しているんです。日本の国土とすれば、3,500万人ぐらいが容量であろうといますから、一概に人口が減ること自体が、1億2,000万人から見れば3,200万人減るから大変だということになるんですが、考え方によっては、我々が生きていくためには、最小必要限度のやっぱり人たちがそういう地域に住んでいただく。そのためにも、今やらなきゃならないことは何か。したがって、私が中高一貫教育を核として、幼・小・中・高を含めて、全体で、市民挙げて、また市の全ての官民挙げてやっぱりやっていかなければ、今後先ほど言ったように、少子化の中で生き残れる人いない。

定住人口という中では、そういう交流人口と違いまして、やっぱり活動していただく、俺が、私がこのまちを背負っていくんだという形を私はやっぱりつくっていく必要がある。そのためには、こういう次世代を担うすばらしい人たちを残して、この市に。いくためには、こういう形も今回、次世代育成という形の中で提起と申しますか、こういうこともやっぱり必要じゃないんだろうか。もう今考えていかなければ、市が消滅をしてしまうんじゃないか、そういう思いから今回質問をしておりますので、少しずつ再質問をさせていただきます。

先ほど教育長も答えていましたが、中学校と小学校の英語、数学ですか、派遣をして今やっていますよと。そういうことが現実的に成果としてどういう形で私はあらわれているのかなと、ちょっといろいろ心配になりますので。具体的にどういうことでそういう連携が、英語なりとも数学なりともあっているのかな。どういう形で見えてくるんだろうかなとちょっと心配になりますが、そういうところは教育長、どうでしょうか。

○議長（生野 征平君） 教育長。

○教育長（清永 直孝君） お答えします。

御案内のように、英語と数学というのがなかなか段階を追って能力を習得していきなかならないような教科ですから、なかなか中学から高校になったときに教科の内容が高くなって、内容も濃くなってくる。そこでつまづく人が多いと。そのつまづきをどう克服するかという視点の中で、小学校、中学校それぞれ英語と数学については週1回、3中学校から、例えば3年生の英語、中学の担当が高校のほうに出向いて、高校の先生とタイアップしながら、高校の1年生

の授業を一緒に見ていくという。そして逆に、中学の3年生に高校の英語、数学の先生が週1回見えて、3中学それぞれ行って、実際に授業をしていただくと。そういう流れの中で、中学生にとっては高校の教師の教え方のすばらしさというか、親しみを持つとかそういったことによっていいところも吸収もできるし、中学校のほうは高校に行った人たちがどのような流れでスムーズに英・数をマスターできるかということの跡がうかがえるということで、今3年を数えています。市の職員を3中学校にそれぞれ派遣して、6名を送っているという、この成果が出ているものだと感じていますが、今、議員さんから、ちょっと不安が言われるという具体的なことがわかれば答えたいと思っています。

○議長（生野 征平君） 佐藤郁夫君。

○議員（9番 佐藤 郁夫君） 特に、これは個人差もあるんでしょうが、数学、小学校は今算数というんですか、数学というんですか。中学で数学というんですか。やっぱりそこら辺の学力のいろいろ聞いてみますと、保護者の皆さんから聞きますと、特にわかりづらい。中学に行ってから急に算数から数学に変わるのがやっぱり、ちょっとのみ込みが悪くて困っているという声を聞くんですが、その辺のところやっぱり連携を図っていただくならば、流れの中で、小学校じゃ、中学校じゃという形の中でなくて、小・中の連携というのはかなり私は進んでいると思います。先ほどの心配の中で、高校との壁の差はあろうという形を心配されておりましたが、やっぱりまず1つは、小・中の連携を深めて、それから中・高連携の、一貫教育でありますので6年間やるわけですから。合わせて8年、数学、英語をやれば、大概の人が私はそういうふうで伸びていって、市内全体の子どもの学力を含めた力がついていくんじゃないかなと、そういうふうに思っていますが、そういうところの心配が、先ほど言ったように、算数から数学に変わった時点のやっぱり、何かあると。そういう保護者の皆さんの声を聞くんですが、そういうことはどうでしょうか。

○議長（生野 征平君） 教育長。

○教育長（清永 直孝君） お答えします。

小学校中学校それぞれの学年で算数、数学は学習指導要領に基づいて定着すべき中身があります。單元ごとに。小学校6年なら6年の中身があります。その中身を大部分の子どもたち、ほとんどの子どもたちがマスターする。全員が完全にマスターすることを目指すわけですが、今指摘されるのは、低位の子どもたちは、前は何か嫌な言葉もあったんですが、今はもう低位な子どもたちというような言い方をしていますが、そういう子どもたちをいかに高くしていくかというのが大きな課題です。そして、どの子もやはり学力は絶対保証しなきゃなりませんので、その面の力を入れている1つの手だてとしては、今国やまた県でそれぞれ学力テストをやっています。それを補うところで、市の学力テストも各学年で国語、数学、そして中学では英語を実施をしている

ところでは、そういう学力テストだけでそれが高まるとは思いませんが、それも大きな1つの手だてに、客観的なテストですから、そのテストの結果によって学習する教師のほうの反省材料、落ちはここにあるな、こういうところをその1年間の中でマスターさせたいという気持ちで取り組んでいるところです。今後ともその辺は十分気をつけながら、一人一人を学力保証させていくという視点で頑張っていってほしいなと、指導していきたいなと思っているところです。

○議長（生野 征平君） 佐藤郁夫君。

○議員（9番 佐藤 郁夫君） これは子どもたちが少ない中で、やっぱり愛着じゃないんですが、郷土に戻ってまちづくりをしようという形を、私はやっぱり幼・小・中・高を含めた中でやっていかなければ、そういう状況は起こってこないのだろうと思っていますし、特に先ほどの答弁を聞いていまして、小中高連携の挨拶運動とかごみ拾いとかはそういう壁があまりなくて、行事の連携というのはできやすい。それは私も思いますし、そういう形を使って、やはりそれぞれがいつも、あの感じやなとかいう、お互いが触れ合うということがきずなを深めていくことだろうと思いますし、そういうことはできていくのかな。

ただ、1点心配なのは、先ほども答弁がございました。教員の交流で小・中は何とかいくんだけれども、やっぱり1つは県立高校ということで、そういう壁があるから厳しいと。ただ、それは私もそういう状況が、それぞれ組織がありますのでわからないわけではないんですが、やはりそれぞれが由布市に来て、小・中の教員だってやっぱり大分市やらその他の市から来ていますんで、やっぱり来た人は庄内、湯布院、挾間等に愛着心を持っていただいて、自分たちのふるさだと、そういう考えからいけば、小・中・高の教職員の壁というのはなくしていかなきゃならないし、そういう壁をつくること自体がやっぱり子どもたちに影響が出るということも思いますので、ぜひその点は教職員の連携も図っていただいて、子どもたちがよりよい教育環境の中で学習できるような、また部活動もできるような取り組みをしてほしいと、これは要望しておきます。

次が、地域のニーズに合った環境の整備の中で、きょうも由布高校に行ってみまして、いろんな発行している新聞等を見せていただきました。特に、この中で一番特徴的な由布高校の、他校にないというのは観光コースができたんです。非常に注目されている部分でありまして、これもそういう由布高校が発行している分を見せていただきましたら、授業とあわせて、関連させたインターンシップを実施して観光コースの生徒全員を湯布院町の12の事業所で受け入れていただいて、従来の就業体験ではなくて、観光に訪れた人へのアンケート調査も実施して、そういう内容も含めてまとめて、全国に先駆けて観光面を含めてやっているんだって、これは素晴らしいんです。したがって、こういう特色ある観光コース等がまだまだPR不足かな。そして、現実的には子どもたちも書いていますが、そういう感想で書いています。農業とかやってみたら非常に大変で、大変な作業をしながらいろんな食物ができていくんだなと、そういうことも言われてお

りますんで、やっぱり市としては今のいろんな中で特産物を含めて6次産業化ですか、いろんなことを考えていられていますが、そういうところまで踏み込んで高校側にそういう情報提供やら、子どもたちに活動をさせるような、体験学習も含めてさせるような提言をされたらどうかと私は思うんですが、教育長、どうですか。

○議長（生野 征平君） 教育長。

○教育長（清永 直孝君） お答えします。

御指摘のとおり、観光コースというのはほんとの、ある意味では目玉みたいなものがあるかと思ひますし、由布市の立地条件等も考えた上でのことだろうと思ひています、このコースは。やはりPR不足ということもあろうかと思ひますので、今後検討したいなど。どのような形で具体的に持っていけば有効になるのかということをお考えながら進めてまいりたいと思ひます。

○議長（生野 征平君） 佐藤郁夫君。

○議員（9番 佐藤 郁夫君） ぜひそういう点も、どしどし市のほうから情報提供しながら、うちのやっぱりそういう情報もともに共有するような体制づくりというのが私は大事で、壁等ではなくなるんだらう、また徐々に解消していくんだらうと、そういうふうにお思ひていますんで、いろんな状況を使つて壁をなくしていく策をとつていただきたいと思ひています。

それから、時間がだんだん押していますので、各課の連携で次世代育成策をというのが、私が当初申し上げましたように、少子化でだんだん住む人がおらなくなるという状況の中で、1つは子育て環境の整備、特に子育て世代のための市営住宅の整備・確保が一番重要だろうと思ひています。それには企業等の問題も出るんですが、まず住んでいただかなきゃいけない。

特に、先ほどの出生率もあつたんですが、庄内地域においてはほとんど住もうにも住めないし、そういう若い人が帰ってくる場がないじゃないか、そういう指摘をずっとされていますんで、私はやっぱり子育て世代のための住宅確保というのが、そういう地域については大事だと思ひています。したがつて、先ほどの市営住宅等の研究調査をするというのは、研究調査もしていただかなきゃ悪いんですが、現にあるいろんな施設が小学校等の近隣であるところが、多分今市営住宅がありますね。そういうところを優先順位をつけてでも他の市にずっと調べてみましたらあります。子育て世代のための優先順位、規則規定等をつくつて、そういうところがあるんです。市長、この件はどうですか。これやっぱり早速やらなければ、市長の言われるような将来やっぱり皆さんが担ってくれるような人材確保等もできないんじゃないかと思ひていますが、これはどうですか。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） いろんな住宅政策の中で、そういう子育て支援の住宅を建てて、そしてなおかつそのまま入つたまま、子どもが卒業していなくなつてもまだ住み着くというような状況

もあるやに聞いております。そういうことから、そういういろんな条件をつけながら住宅施策をしていかねばならないと。

出生率も庄内が少ないのは、庄内の若者がよそに行って住んでいると。由布市民であることは変わりはないのだが、よそに行って住んでいるということは、今議員が指摘されるように、庄内にはそういう働く場所がないという。また、大分市に働きに行くにしても、利便性がよくないというような状況で挟間に住んでいるという子どもが、私が知っている限りでも相当数いるわけがあります。そういうことから、やっぱりそういう住環境の整備も含めて十分考えていきたいと思っております。

○議長（生野 征平君） 佐藤郁夫君。

○議員（9番 佐藤 郁夫君） 十分考えていくというのは、今の数字が出ています。12年後は恐らく中学校も小学校も厳しいだろう。したがって、私が言ってるのは、子ども、そういう御夫婦が妊娠されて、義務教育期間はそういうところに入っていただきますが、その後の利活用につきましては、条件をつけて、高齢者の部分がございますので、そういう方たちには対応するとかというような順位づけ、また優先の規則等もつくれば私はいいんだろうと思っていますので、そういうところは産業建設部長、どうですか、産業部長。建設部長、そういうところは事例がたぶんあると思うんですが、どうですか。

○議長（生野 征平君） 産業建設部長。

○産業建設部長（工藤 敏文君） 産業建設部長です。お答えします。

御指摘のとおり、子育て世代に対する優先的に入居できるように配慮した選考制度を設けた市町村はかなりございます。由布市では、確かに選考制度については老人世帯であるとか寡婦世帯であるとかに今設けているところでございます。今後、子育て世代に適した入居環境が、間取りとか広さですね。そういう住宅がどうなのかなという心配もありますし、あるいは地域での需要がどれくらいあるのか、もうちょっと考慮しなければならないと思いますので、不公平感が生まれないような措置を考えていきたいと思えます。

○議長（生野 征平君） 佐藤郁夫君。

○議員（9番 佐藤 郁夫君） 現場の部長が、市長、そう言っていますんで、ぜひこの件は待たなしで調査をして、新年度からでも、いつかのときでもそういう情報提供しながら、市はここまで子育て世代の皆さんのことを考えていますよということをやるべきじゃないかと思うんですが、市長、決意はどうですか。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 十分検討させて、そしてその方向が見出せればその方向に行きたいというふうに思います。

○議長（生野 征平君） 佐藤郁夫君。

○議員（9番 佐藤 郁夫君） あと10分しかありませんので、この件は今回は、私は全体の中で各課も含めて、市民も民間も含めて、みんなで市内の子育てする人を確保するために頑張っていこうという、みんなで支えていこうということでもあります。まだまだ言うことが相当ありますので、また次回に回しますが、ぜひこういうことを言った、また皆さんわかっていると思いますけれども、企業誘致も含めて、働くところがねえ、住むところがねえ。もうそりゃないないづくしじゃどうしようもなりませんので、ぜひ私が、この質問の中で提起していますので、どうぞ各部長、各課長は心にとめておいて、施策をやっぱり次年度からでも考えていただくようお願いをしておきたいと思っています。

それから、1点目の市長の市政8年間、約8年ですね。行政評価と、先ほど回答もいただきました。1つは、市長は合併して大変な時期の中で、融和・協働・発展ということを掲げて市政を運営しております。しかしながら、あらゆる段階、またあらゆる地域の中で皆さんそれぞれ考えることは違いますし、合併してよかったか悪かったか、いろんな、まだまだ皆さん議論もしている部分もあるんですが、市長として、合併は、ここら辺ははっきり僕は聞いてなかったのかなと思う。合併してよかったと思うんですが、どうなんですか。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 合併してよかったと思っています。

○議長（生野 征平君） 佐藤郁夫君。

○議員（9番 佐藤 郁夫君） それならば、ちょっと前の1期議員のときからのずっと議会だよりも含めて、答弁内容、本庁舎方式からいろんな問題、合併してどうやったんかというのをずっとそれぞれ議員の方が言われているんです。その中で、市長、ずっと言ってきているのは、総合的に慎重に判断する中で、任期中に市長として方向性を出したいとずっと言ってきている。それは、今の現実のこういう厳しい社会の中で来ているのに、ずっと見る人によっちゃ逃げてきているんじゃないかなと、問題の本質を。そういう見方もされる人がおるんだけど、市長はどう考えていますか。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 合併の歴史をひもとけば、合併法定協議会の中では、旧3町がほんとに、庁舎は我が町にというような争いの中での合併であったと思います。そういう、それぞれのこれまでのつながりのない、大分郡とは言いながら、いろいろ関係のない、つながりのない地域の合併でありましたから、それぞれの地域住民の皆さんの思いというのはほんとに大きく違っていた。それはもう皆さん御存じのとおりであります。そういう中で合併を進めていって、ではこの3地域、特色のある3地域の人たちをどのように心を1つにまとめていくかと、そのことをいつも考

えておりました。だから、そういう庁舎問題についても、ばんとのるかそるかで決着をつければつけられたんではないかということも考えられますけれども、そういうことで市政を切り切っていくというのは余り将来に禍根を残して、市民の皆さんにもつらい思いをさせると。そういうことから、できるだけ聞かれるところは聞き、そしてまた考えられるところは考えていくと。

そんなに焦らんでいいではないかという声もありましたし、もう早く決着つけろという声もたくさんありました。そういう両方の声を聞きながら、私自身はじっくり考えて、そしてやはり市民の皆さんが大体落ちついてきたというか、大分理解を示してきたと。そしてやっぱり庁舎を本庁舎にすべきだというような意見が出始めて、そしてまたそういう声が強くなってきたと。そういうことから今この時期に来ているわけで、決して逃げてというのではなくて、ほんとに皆さんの理解を得るために努力しながらこれまでの期間がかかったというふうに私は認識しております。

○議長（生野 征平君） 佐藤郁夫君。

○議員（9番 佐藤 郁夫君） 市長の思いですね、また政治手法と申しますか、いろんな個々の個人差はあろうと思いますし、市長から見れば、8年かけて融和・協働が整いつつある。したがって、今の時期に本庁舎はもう決めてきちっと不退転の決意でやるということだったんですね。だったら市長、もう、先ほど少し課題とかいうのも聞いたんですが、市長、そういう今回も本庁舎に対する予算も約3,000万円ぐらい出しています。これに対しては、市長はもう逃げないで、きちっと説明責任を果たして、責任を持ってやるという決意なんでしょうね。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） ほんとに1つのまちがまとまっていっどいというのは、合併して10年たって初めて少しまとまってくるというようなことを今まで歴史もそのように物語っておりますが、この由布市においては、そういう意味ではかなり早目にそういうことができているんじゃないかなと思います。

今回、予算をつけさせていただきましたけれども、これがほんとにスタートでありまして、一番大事な状況でございます。もう私もこれまでの取り組みの中で決意をいたしましたので、ぜひとも通していただきたいという決意であります。

○議長（生野 征平君） 佐藤郁夫君。

○議員（9番 佐藤 郁夫君） ややもするといろんな、きょうも傍聴で来られているOBの方も——かなり議員OBの方もおられますし、いろんな方もおられますが、人生速度という問題もあるし、その時期に時期にはやっぱり、逃げるというちゃ悪いんですが、そういう節目節目で、きちっと筋を通して行くところは行く必要がある、そういう方が多いもんですから、私もこういう言い方もさせていただきましたが、いずれにしても、もう由布市民3万6,000弱ですが、そういう形のことを、今後のことを思えばやっぱり前向きに、市民を誘導するようなリーダーシッ

プをとらなきゃこの時世を乗り切っていけないと思いますが、再度決意を。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 今回の件については、市民の皆さんにも十分説明をして理解をしてもらいたいと思っております。私が考えて、また職員にも考えさせた最善の方法であると、これからの由布市のためには方法であるという思いでありますし、これについて、この方向を変えるとか今回の予算について変えるとかというようなことは毛頭ございません。決意を持って進めてまいりたいと思っております。

○議長（生野 征平君） 佐藤郁夫君。

○議員（9番 佐藤 郁夫君） あと1分です。ありがとうございました。

いずれにいたしましても、それぞれがそれぞれの立場でやっていきますけれども、リーダーはやっぱり、市政を担うのは市長でありますので、どうぞ強い決意を持ちながら、私は私の議員としての立場で、いろんなことも市民の将来の由布市が輝くような由布市を私もつくっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

これで私の一般質問を終わります。

○議長（生野 征平君） 以上で、9番、佐藤郁夫君の一般質問を終わります。

.....

○議長（生野 征平君） ここで暫時休憩します。再開は14時45分とします。

午後2時31分休憩

.....

午後2時45分再開

○議長（生野 征平君） 再開します。

次に、5番、二ノ宮健治君の質問を許します。二ノ宮健治君。

○議員（5番 二ノ宮健治君） 皆さん、こんにちは。5番議員の二ノ宮健治でございます。ただいま議長のお許しをいただきましたので、通告に基づきまして一般質問を行います。

先ほど市長が、3期目に挑戦するという気持ちを私は感じました。そういう中で、市をどのように経営をしていくか。大変難しいと思いますが、やはり市長の力量にかかっていると言っても過言ではないというふうに思っています。ぶれなくて、そして力強く、確とした経営方針の中で市政運営が必要ではないかというぐあいに思っております。

今月の25日の大分合同新聞「東西南北」もう読まれた方が多いと思うんですが、こういう記事が載っておりました。

「島人らしい——しまびとですが、柔らかい語り口だった。第3回地域再生大賞の表彰式で、大賞に選ばれた沖縄県伊是名村のNPO法人「島の風」理事長のスピーチが心に響いた。私たち

はもう一度自分たちの身の丈を知り、定義をして、人の借り物ではない自分たちの物差しで島の幸せを測ってみようと思っています」。この島は、1,600人ぐらいの小さな島だそうでございます。

さらに続きますが、「島のおじい、おばあ、子どもたち、そして地域の人たちとともに、拡大へ向かう方法論を捨て、力強さの方法論へつなぎながらこつこつと事業を組み立てていきたい」ということがありました。

大分県からは玖珠町の豊後森機関庫の保存委員会が優秀賞に輝いた賞でございます。

私、この記事を読んで、目からうろこといいですか——が落ちたような気がしました。由布市が目指す地域自治を大切にしたい住みよさ日本一の由布市のスローガンも大変すばらしいと思いますが、私はこのスローガンだけでは具体的にどのようなまちにするのか、なかなか市民にもわかりにくいんじゃないかというぐあいずっと考えておりました。そこに、突如という言い方はおかしいんですが、あらわれた健康立市構想、行政には珍しいという言い方も大変失礼なんです、あっという間に具体化をいたしまして、今回の25年度当初予算に既に計上されていますし、25年度からいよいよもう事業開始ということになっております。大変フットワークの軽いすばらしいことだというぐあいに、特に担当の方を褒めてあげたいというぐあいに思っております。

健康については今さら言うまでもなく、私たちが幸せな生活をする上で大変重要なことだと思っています。全ての源といっても過言ではありませんし、このことについては多くの市民の賛同を得られると感じております。

そこで、先ほどの言葉を由布市に置きかえると、自分たちの身の丈、由布市の大きさを知り、そしていろんなものはっきり決めて、借り物ではない、やはり地に根差したといえますか、そういう物差しで由布市の幸せを測っていき、拡大へ向かう方法論、今は成長やそういうものを求めるんですけど、もう少し地についたしっかりとしたものの中で力強さの方法論で地域自治を大切にしながらこつこつとゆっくり、地を足につけながらというような言葉に変わるんじゃないかとも思います。

今から健康を機軸とした由布市づくりが市全体の方向として示されていくんじゃないかというように感じております。市長もぜひこの言葉を胸に、健康立市由布市をつくっていくためにも、前向きで積極的な、きょういろいろ質問いたしますので、回答を期待をしております。

では、質問に入ります。

2点ありますが、1点は、平成25年度当初予算から見る由布市の運営についてでございます。今年度は、本庁舎方式に向けた取り組みが具体化していくと思われるが、由布市百年の大計に立った判断のもとに新しい出発の年にしたいと考えている。また、10月には市長及び市議会議員選挙も行われるが、市民の声が行政に大きく反映され、市民の福祉の向上に向けた市政運営を行

うための予算になっているかを基本にお伺いしたいと思っています。

まず1点目として、25年度当初予算の基本方針についてでございます。

第2次行財政改革大綱実施計画との関連や監査の指摘事項は予算の中でどのように具体的させているのか。そして、由布市総合計画の推進に向けた取り組みについて、さらに、重点施策についての具体策は。特に、今年度新規の農業振興、農業所得向上対策及び健康立市推進についてお伺いいたします。

それから、由布市の財政状況と今後の財政見通しについてでございます。23年度決算では、経常収支比率悪化などの結果が出ていますが、今年度予算で改善に向けた取り組みをしているのか。また、地域財政計画でこの二、三年間に大型事業が集中しているが、起債償還等今後の財政見通しについてお伺いいたします。

そして、庁舎方式移行について。今年度予算との関連及び今後の進め方についてでございます。

大きな2点目として、由布市立幼稚園の運営についてお聞きします。

幼稚園の保護者からお叱りを受けまして、それから幼稚園を、今6園あるんですけど、園長、それから先生方、校長先生を訪ねて訪問させていただきました。そういう中で、いろんな問題点があると感じましたのでお聞きをいたします。

1点目は、市立幼稚園の施設整備計画があるのか。2点目は、運営体制についてでございます。園長制度をとっている園ととっていない、専任園長でございますが、今後はどういう体制をとっているのか。2番目として、園長制度にはメリット・デメリットが考えられるが、特に幼稚園と小学校の連携については大切なことと考えるが、その兼ね合いといたしますか、それをどのように考えているのか。

幼稚園の人員配置についてですが、人の命を預かるという観点から見れば、少し無理をしている、少ないんじゃないかというように感じました。当局は現場の状況を把握しているのかということについてお聞きします。

大きい3番として、小一プロブレム対策についてです。

小学校に入学したばかりの小学校1年生が、集団行動がとれない。授業中に座ってられない。話を聞かないなどの状態が数カ月続くなどの問題について、学校に入る前の家庭のしつけ、それから幼稚園、保育園の教育に原因があると言われております。このことについて由布市の取り組みについてはどういうことをしているのかについてお伺いいたします。

以上2点についてお伺いいたします。

再質問はこの席で行わせていただきます。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） それでは、5番、二ノ宮健治議員の御質問にお答えをいたします。

最初に、平成25年度当初予算と第2次行財政改革大綱並びに実施計画との関連についてであります。予算議案の提案理由でも申し上げましたように、この大綱と計画は由布市の持続可能な財政基盤を構築するための財政運営上の羅針盤として位置づけておりまして、遵守する取り組みを行っておるところであります。

平成25年度当初予算では、この大綱の基本理念であります財政基盤の確立、行財政運営の効率化、人材育成等の推進、民間活力の導入、市民との連携強化の5つの視点を踏まえて編成に当たりました。特に、今回は総合計画第3期実施計画の策定にあわせて、事業費目を予算、総合計画、事務評価で統一化して、事務事業評価制度を徹底をしたところでありまして、このことにより事務経費と給与関係費以外は全て評価の対象となりまして、一つ一つの事業の有効な検証はできたと考えております。

また、行政運営の効率化の観点から、現在進めております行政組織機構見直しにあわせて、本庁舎方式への移行に伴う事業費の一部を予算計上しております。安定的な財政運営を図る目的から積み立てております財政調整基金につきましても、計画に沿って取り崩しを抑えて、目的、目標額の保有に努めてきたところでありまして、

監査指摘事項の住宅使用料、保育料、水道使用料の収入未済対策については、各担当課でこれまでに取り組んでいる納付対策をさらに強化徹底して、収納率の向上に努めたいと考えております。

総合計画の推進であります。第1次総合計画の最終3カ年の実施計画を、次期総合計画を見据えながら、社会情勢の変化や市民満足度調査、地域課題を十分に組み入れて策定をいたしました。由布市の目指す地域自治を大切にしたい住みよさ日本一のまちの実現に向けて、各課に各事業の3カ年の方針を示した上で、計画の初年度である平成25年度予算編成に反映をさせたところでありまして、

農業振興、農業所得向上の対策についてであります。由布市の農業生産は、生産者の高齢化や後継者不足などによりまして年々減少をしております。農産物生産額の減少に歯どめをかけて、農業所得向上対策のために平成25年度より新たな3つの対策に取り組むこととしております。

その1つに、生産コストの縮減のための農業生産基盤や生活環境基盤の整備に農業生産者が積極的に取り組めるように、事業費に対する市の助成率を引き上げて、農家負担の軽減を図ることにいたしております。

第2に、農家を巡回し、普及指導に当たる高度な技術や知識を持った改良普及員を増員することによりまして、農業技術の向上や農業経営改善への取り組みを支援してまいりたいと思っております。

第3に、農政課内に地産地消係を配置して、地産地消・特産品ブランド推進協議会が担ってきた農・商・観連携による地産地消の普及、特産品開発やブランド化などの取り組みを引き続き重

点施策として位置づけてまいります。ブランド化事業の推進拡大に努めるとともに、新たな担い手の確保を図る就農支援対策にも積極的に取り組んでまいります。

また、由布市の農林水産物などの地域資源を活用した商品開発や販路開発などの取り組みを支援する由布地域資源活用特産品開発支援事業を創設いたしまして、6次産業化の促進や地域産業の活性化を図ってまいりたいと思います。

次に、健康立市推進であります。健康立市の推進体制として、各種団体、組織、市議会などの代表者と、副市長を初めとする行政関係者数名を加えた20名程度で構成する由布市健康立市推進協議会の設立を準備しております。協議会には、部・課長、担当者からなる作業部会を設置し、協議会で審議する事項や協議会会長から指摘を受けた事項について調査研究を行わせるようにしております。全ての職員による横断的で総合的な推進体制を整えてまいります。

平成25年度の健康立市推進のための事業といたしましては、子どもからお年寄りまで参加できる事業、地域で取り組む健康づくり事業、健康に対する意識の高揚を図る事業などを実施する予定で、総額約2,000万円の関連予算を計上しております。

次に、市の財政状況と今後の見通しについてであります。平成23年度決算では、公債費、扶助費や負担金などの増加によりまして、経常収支比率が4.4ポイント上昇いたしました。このため、経常経費の予算要求については、前年度比3%減の枠を設けて経費の削減に取り組みしました。

また、中期財政計画に掲載している大型事業の実施では、極力国や県の補助金を利用するとともに、残りの財源も辺地対策事業債、過疎対策事業債や合併特例債といった交付税算入率の高い優良起債を充当することにしております。

中期財政計画策定時の見込みでは、学校施設の耐震化や庁舎建設などの事業が集中する平成24年度から26年度までの3カ年で48億円ほどの借り入れを行う見込みとなっております。この場合、いわゆる起債償還金の支出額のピークは平成30年度となりますが、その時点での実質公債費比率の試算では8.8%と見込んでおります。起債借入の際に制限を受ける早期健全化基準が実質公債費比率25%でありますので、公債費関係の数値が極端に悪化することはないと考えております。

いずれにしましても、普通交付税が合併算定替から一本算定へ段階的に縮減される平成28年度からは、今よりもさらに厳しい財政状況になることは必至であります。それで、平成27年度末の財政調整基金残高の25億円保有といった行政目標を達成すべく、さらなる財政の健全化に取り組む所存であります。

本庁舎移行に関する予算であります。平成25年度当初において増築予算の実施設計など関連予算を計上しております。今後の進め方ではありますが、平成25年度に各自治委員会や各地域

3カ所程度市民説明会を行いまして、平成26年度から27年度に庁舎の増築、平成27年度9月に本庁舎への移行を考えております。

次に、小一プロブレムについてであります。小一プロブレムの原因といたしましては、制約のない幼稚園、保育園と規制の多い小学校の環境の格差、家庭教育の欠落や不足による基本的な生活習慣の自制心を身に付けることのおくれなどとされているところであります。

小一プロブレムとされる子どもたちの行動の原因はさまざまありますが、原因の1つとして、近年、発達障がいを取り上げられております。発達障がいの早期発見、支援の取り組みとしては、1歳半健診、3歳児健診において臨床心理士を配置して、発達面での観察や相談を行い、早期治療につなげるとともに、保健師による継続的な支援を行っているところであります。健診後の支援といたしましては、市内の保育園、幼稚園との情報共有や現場支援を年間を通して行うことで一定の成果を上げているものと考えております。また、小一プロブレムの他の原因としては、養育環境などの問題も考えられます。これらの問題に対しては、子育て支援課を中心に、必要に応じた支援を行っております。

小一プロブレム対策はさまざまな観点での取り組みが必要であることから、関係課や関係機関の連携を強化してまいりたいと考えております。

以上で私の答弁を終わります。

他の質問は教育長より答弁いたします。

○議長（生野 征平君） 教育長。

○教育長（清永 直孝君） それでは、私のほうから答弁をいたします。

由布市立幼稚園の施設整備計画についてお答えいたします。

由布市総合計画において、幼稚園施設管理事業、幼稚園施設整備事業として幼稚園施設の維持管理及び老朽化施設等に伴う改築、改修工事の年度計画を作成しています。幼稚園の耐震化の取り組みについては、由布川と由布院幼稚園は新耐震基準で建築されており、耐震性は確保されています。挾間幼稚園については、築後35年が過ぎ、施設の老朽化が進行していることから、来年度から3カ年、施設の環境整備を計画しています。現在、由布市立小・中学校の耐震化整備計画において、平成28年度までに耐震化の完了を目標としていますが、小・中学校の施設と同様に、幼稚園につきましても、緊急性、危険性のある改善箇所については速やかな対応を図り、園児が安全で楽しい活動を行えるような施設として教育環境の改善に努めてまいりたいと思います。

次に、由布市立幼稚園の運営体制についてですが、園長制度は由布川幼稚園、挾間幼稚園、由布院幼稚園の3園には専任園長を配置し、そのほかの5園石城幼稚園、谷幼稚園、阿南幼稚園、西庄内幼稚園、塚原幼稚園については、隣接する小学校の校長を兼任園長として配置しています。今後もこの体制を継続していくようにして、考えているところであります。

専任幼稚園長制度を本格的に実施したのは2年前からです。専任幼稚園長は、兼任幼稚園長と比べ、常時幼稚園にすることができ、さらに、長年の幼稚園教育の経験を生かして、園児や保護者に寄り添い、教諭に行き届いた指導ができていると考えています。また、幼稚園と小学校の連携についても、小一プロブレム対策事業の中で連携の大切さを実感し、取り組みを進めています。本年度は2回、市内の保育園、幼稚園、小学校の教職員が一堂に会し、幼・保・小推進協議会を開催しました。また、人権教育の研修会でも、幼稚園、小・中学校、由布支援学校の職員が同じ場で研修を行い、それぞれの課題や子どもの育ちについて情報交換を行っています。今後もこのような研修会や情報交換の場を通して交流を継続することは必要と考えています。

次に、幼稚園の人員配置についてですが、市内の全幼稚園にクラス数プラス1名の人員を配置しています。また、由布川幼稚園、挾間幼稚園、由布院幼稚園については保育時間のみではありますが、支援教諭の配置を行っています。

学校教育法に基づく幼稚園施設基準では、1学級の幼児数は35人以下を原則とすると定められています。また、幼稚園の教職員については、園長のほか少なくとも学級数分の教諭等を置かなければならないとなっています。由布市においては、1学級当たりの園児数も多い園で25名前後、少ない園では8名程度になっています。教職員についても、クラス数プラス1名の配置になっているところではあります。

小一プロブレム対策の取り組みについてですが、由布市においても県の委託事業として平成23年度から3年間、由布川小学校区を中心に取り組みを進めています。平成23年度は幼稚園や保育園から小学校へのスムーズな接続を行うための指導計画、アプローチカリキュラムを由布川幼稚園で作成しています。本年度は由布川小学校で保育園、幼稚園から入学してくる子どもたちをスムーズに学校生活に入れるためのスタートカリキュラムを作成しています。

先ほど述べました由布市幼・保・小推進協議会の中で発表し、今後は全市での取り組みを進めていくように計画しています。この取り組みの中で、今まではばらつきのあった保育園、幼稚園と進学先の小学校の連絡会についても開催日時を調整し、全ての保育園、幼稚園を対象にして実施してまいろうとしています。

しかし、挾間地域については、市外の保育園や幼稚園に就園している子どもも多く、その園との連携をどのように進めていくかが今後の課題です。

以上です。

○議長（生野 征平君） 二ノ宮健治君。

○議員（5番 二ノ宮健治君） じゃ、再質問に入ります。

何かほとんどいい答えをいただいたんじゃないかというふうに思っています。お手元に、議長に許可をもらうのがおくれたんですけど、一般質問の資料を差し上げています。ぜひ参考にしな

がらお願いしたいと思います。

今、一般質問がインターネット中継をされています。結構友達が見ていますし、高校時代の親友が福岡におって、よく電話がかかってくる。恐らくきょうも見てくれていると思うんですけど、その中で、二ノ宮の質問はちょっと難し過ぎるのということ、それから自分の地域のことばかり質問する議員がおるなあと、これはどうかなと。それから、市長はまだ厳しいんですけど、もう少し本音の回答ができないのかとかということが来ます。これは私が言ってるんじゃないで、その友達が言っているんで、お許しを願いたいと思います。

今回もちょっとまた親友から怒られるかもしれませんが、少し難しいことからちょっと入っていきたいと思います。

先ほど許可をいただきましたお手元にあります資料1です。これは平成25年度の地方財政対策のポイントということです。これは簡単に言えば、地方財政計画というものです。このことについては、後で少し詳しく説明します。

そういう中で、通告からちょっと外れるかもしれませんが、これも25年度の予算編成に関連しますので、まず市長にお聞きします。

先ほども申しましたが、由布市の将来像が、地域自治を大切にしたい住みよさ日本一のまちということがありますが、その中の、いつもひっかかるんですが、その地域自治という言葉について、市長どのように捉えているのか、まずお聞きいたします。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 今質問の地域自治という形でありますけれども、これはそれぞれの地域にいろんな課題とか問題がありましようけれども、地域の市民の皆さん、そして議会、行政、市が、課題とかあるいは意識を共有して、地域間の連携あるいは協力をし合いながら、互いに力を出し合って、自分たちの地域に合った、身の丈に合ったそういう自分たちの地域課題を解決して、そして自分たちの力でつくっていく、これが私は地域自治であるというふうに考えております。

○議長（生野 征平君） 二ノ宮健治君。

○議員（5番 二ノ宮健治君） その小さなといいますか、いろんな大きさがあると思うんですが、それが大きくなると地方自治だと思っています。地方自治というのは何かだと、今ごろそういうことはおかしいと思うんですけど、概説というのがここにあります。これは、国が公正かつ普遍的なということで、画一的、均一的に国を治めなければならないということですが、地方はなかなか国のとおりにはいかないんです。簡単に言えば、地方の独自性を考慮した運営を行っていいよと、行わなければならないというのが地方自治です。その下にあるのが地域自治だというふうに思っています。このことについては、市長御理解をいただけると幸いです。

このような精神を受けて、平成7年に地方分権推進法、そして12年には地方分権一括法が施行されました。これはこういうぐあいに書いています。「国及び地方公共団体が分担すべき役割を明確にし、地方公共団体の自主性・自立性を高め、個性豊かで活力に満ちた地域社会を実現する」と高らかにうたわれております。この地方分権に対する市長の考えはどうか。お伺いします。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 最近のテレビで見ますと、酸ヶ湯という青森県の地域では、雪が5メートル66センチ積もっていると、そこに対する交付金はどのようなものがあるんだろうかと。あるいはこちらでは災害がたくさん発生すると、雨季の災害とかいろんなそれぞれの地域によって大きな課題が違います。そういう課題に応えるべくそれぞれの地域はそれぞれの特性に合った予算を立てながら、地域住民、議会、そして自治体と一緒に自分たちの地域の自治を行っています。そういう中で、今回、国がいろんな形で交付税の削減だとかいう形を表明しておりますけれども、この点についてはほんとに地方自治の、我々の自治を完全に侵害するものであるというふうに私は憤りを持っています。

○議長（生野 征平君） 二ノ宮健治君。

○議員（5番 二ノ宮健治君） きょうの主な内容はそこに行き着くんですけど、まず、先ほど言いました資料1を皆さん見てください。これは大変難しく、私もうまく読めません。しかし、市の財政課長は、これが一番先に出たときに、ぼつと読みながら、ああ、ことしの予算はどうなっていくんだという大体概略を財政課長は立てます。そういうことで、この中の、専門家として簡単に市に関係があるところだけ、少しお願いします。

○議長（生野 征平君） 財政課長。

○財政課長（梅尾 英俊君） 議員の質問にお答えをいたします。

25年度の地方財政計画でございますが、地方が安定的に財政運営ができるように、一般財源総額を前年度と同水準確保するようにやっております。しかしながら、25年度においてはこのうちの地方交付税については、その算定において、平成25年7月から国家公務員と同様の給与削減を実施することを前提として、地方公務員給与費を削減することになっております。そして、この削減によって生じた財源を防災・減災事業、地域の活性化等緊急課題への事業へ対応するために、歳出に特別枠を設けて計上をしております。

その特別枠とは、全国防災事業の地方負担分とか、緊急防災・減災事業費、地域の元気づくり事業費の3つの事業になっておりますが、地域の元気づくり事業については普通交付税により措置され、算定に当たっては、各地方公共団体のこれまでの人件費削減努力を反映するようになっております。この事業以外の2つの事業には地方債を充てて、その償還を交付税で措置するように

なっております。それはことし1番にこの一般財源総額というところが財政課長として気になるところでございます。

以上です。

○議長（生野 征平君） 二ノ宮健治君。

○議員（5番 二ノ宮健治君） ありがとうございます。

何でこんなの出したのかなと思っている人も多いんですが、これを見ると一番下に地方財政計画の規模が81兆9,000億円、物すご額が大きいんで、どの程度の金かわかりませんが、国の予算はことし93兆円でした。だから、大体同じぐらいの金を地方で使っているということです。その中で地方税が36兆円、それから地方交付税が17兆円です。問題なのは、この交付税の財源が、皆さん御存じと思うんですけど、国税5税が今大体10兆8,000億円しかないそうです。その不足をじゃあどうするかということなんですけど、それはあなた方、つまり市が借りなさい、借金しなさいと。それがここにある臨時財政対策債です。これで、国で全体でいうと6兆円、由布市の予算の中では5,180万円ふえて7億5,000万円の借金をしている。もちろんこれは交付税措置をされるんでということなんですけど、大体これが25年地財計画。

また前置きが長くなったんですけど、きょうの質問の主体というのは、この地財計画の中に先ほど財政課長がちょっと説明しました。ちょっと見にくいんですけど、地方公務員の臨時特例ということで、地方公務員の給料を7.8%を引き下げると。そしてさらに、地方交付税を減額をして、その財源を防災等に充てるということです。

公務員の給料を下げること自体がそれは大変なことですし、そのことについて今回は言っているわけではありません。問題なのは、市役所の職員というのは国の職員でもないし、市長の大切な部下だというぐあいに思っております。たとえ下げるにしても、それは市長との話し合いの中で決めるようなことで、国が一方的に地方公務員の給料を決める権利もないし、先ほど市長に答えていただきましたが、地方自治・地方分権の私は精神に反するじゃないかというふうに思っています。市長、これどうお考えですか。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） まさにそのとおりでありまして、今回の公務員の給与の引き下げの、国がお願いという形で来ておりますけれども、実際、国が7.8下げたという形でありましてけれども、その下げた分だけは特別支給とかいう形で国家公務員については支給がされておる。そして、2年間の限定で下げると。あと地方はそんならそれに応じて下げろということでもありますけれども、地方は一旦下げたらこれはなかなか難しい。そういうふうないろんな条件がありますが、本来、私と職員が地域、市民の皆さんの理解を得ながら給与の形をきちっとつくっていく。そしてしっかり頑張ってもらう。これだけ給料は出すよという、そういう独特のものでなくてはいけな

い。地域独自のものでなくてはいけないのを、国がこうしたからおまえたちも下げろ。下げなければ財源を減らすぞと、そういうようなやり方がこれからずっとまかり通っていくと、常に地域自治体は国の顔色を見ながら行政をしていかねばならないという、そういう状況でありますから、私どももこの点については大いに国に対して意見を申し上げて、そしてもとの形に戻していくような形をつくり上げていきたいと思っています。

○議長（生野 征平君） 二ノ宮健治君。

○議員（5番 二ノ宮健治君） 私が思った以上の回答をいただきましてありがとうございます。

資料の2に、全国市長会の緊急アピールというのがあります。これは同じ文面で2月の27日に大分県市長会の緊急アピールとして出されたものです。この中を読んでもらったら、今度の問題点がよくわかると思います。もう時間もありませんのであえて触れませんが、今回のことは、さっき市長が言いましたように、今から国と地方の関係の中で、もうほんとに地方の施政運営といえますか、その根幹にかかわるものだというぐあいに危惧をしています。特に、議員の皆さんは、このことについては十分理解をしていただきたい。私たちは地方議員であり、地方とか地域を守るという大切な役目があるんじゃないかと思います。そういう中で、地方自治、地方分権というのは大切なことだということを理解しながら、国の横暴を許さないように、市長も特に市長会等の中で大きな声を上げていただきたいというぐあいに思います。

以上でその分は終わります。

次が、25年度の当初予算から見る由布市の運営、それから財政計画、今後の財政見通し等についてでございます。これは12月議会で同じことをやりました。というのは、もう今の段階で予算をどうしたとかどうしろとか言ってももう当然間に合いません。それは12月議会の中で予算を立てる前にいろんなお願いをいたしました。特に、今回についてはそのことが少し生かされているかどうかということをお聞きをしたいと思っています。

まず市長にお聞きいたします。25年度予算編成が終了いたしました。その中で由布市の財政状況がどのように推移をし、今後の見通しを、由布市を引っ張るといいますか、由布市の先頭に立つものとしてどういうぐあいに理解をしているかについてお聞きします。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 由布市のこれから合併の算定替が28年度から始まるわけでありまして、この点が我々の由布市にとりましても大変な課題でありまして、これをどのようにして乗り越えていくかという形でありまして、今のうちにその算定替えに対するその対策として、貯金をしっかりしておかねばならないという形でありまして、調整基金が今ほぼ満額に近い状況で、近づいてきておりまして、そこまでいけばかなりの、少し財政的な余裕ができてくると思っておりますが、いずれにしても全国的でありますけれども、これは厳しい状況でありますので、この算定替

についてはまた、六団体と国との協議の中で、延長とかあるいは軽減とかというような形をとっていくような要求をしてみたいと思っております。

○議長（生野 征平君） 二ノ宮健治君。

○議員（5番 二ノ宮健治君） 財政課長にお聞きします。

同じ質問です。特に危惧しているのは、今年度の予算が10億2,000万円、率にして6.2%の増になっています。事業も市長の施政方針を聞いた段階では、大盤振る舞いという言葉は悪いのかもしれませんが、いろいろなことをやっていただいている。それはうれしんですけど、将来にわたっての公債比率とか経常収支比率とか、そんなのほんとに大丈夫かなという少し危惧をしています。時間がないので、簡潔にお答えください。

○議長（生野 征平君） 財政課長。

○財政課長（梅尾 英俊君） 財政課長です。議員の御質問にお答えをいたします。

まず、財政状況と今後の運営でございますが、先ほど市長答弁にもありましたが、財政の硬直化を示す経常収支比率が90.9%になり、今後も交付税の削減や社会保障関係の経費増額等が見込まれ、当分はこの比率が減じる見込みがないことが懸念されます。平成12年度の合併以降、職員数の減、経常経費の削減、評価制度による事務事業の選定等、財政健全化のための不断の努力を続けておりますが、財政運営におきましては、ひとえに市の一般財源総額の半数を占める交付税によるところが大きく、由布市におきましては、この交付税が平成28年度から段階的に一本算定の交付金額に減じることが明らかとなっております。

このため、平成33年度以降の地方交付税の額は現在よりも約12億円減じるという試みの試算がなされております。

このようなことから、今後の財政運営におきましては、歳入財源の確保に努めることはもちろんですが、歳出、特にさらなる経常経費の思い切った削減を断行していかなければならないと考えております。

また、本年度の予算編成で、財政課として苦労したことは、25年度の予算編成の内容についてはその査定状況をホームページで公表しておりますが、各課からの1次要求時点で13億3,000万円ほどの財源不足が生じました。そのため、予算査定におきましては既に前年度より3%カットをしている経常経費をさらに削減し、また単独の事業につきましても、全て必要なものでありますが、不急の事業は先送りをお願いし、最終的には3億8,000万円ほどの財源不足になりました。これを財政調整基金から繰り入れまして、予算の収支を整えた次第です。

この中で工夫した点では、職員の財政意識の共有度を高めるため、査定を始める前に予算編成の全体状況を説明してから査定に入りました。査定においても、丁寧な査定といいますか、担当課の話をよく聞いての査定に徹しました。このことによって、抑える経費は抑えつつ、重点施策

を積極的に盛り込んだ、まさに編成方針に従った予算ができたと思っております。

以上でございます。

○議長（生野 征平君） 二ノ宮健治君。

○議員（5番 二ノ宮健治君） 特に、先ほどいいましたように、合併特例債を使った事業がこの二、三年でめじろ押しだと思っています。もちろん必要なことは、必要な金を使わなければならないと思っていますが、そういう財政状況といたしますか、そういうものを加味しながら、ぜひ計画的なことをお願いしたいと思っています。

具体的なものを二、三お聞きします。

1つは、12月の中で監査指摘をされた水道料、住宅使用料、保険料、介護保険、このことについては何かあれはなかったようにあるんですけど、回答では、法的な措置の執行も含めて収納を強化するというこないだ12月の回答でした。このことについて、実際に今度の25年度からどういう取り組みを今考えているんですか。何か具体的なことがあるんでしょうか。

○議長（生野 征平君） 誰に答弁を求めますか。

○議員（5番 二ノ宮健治君） 市長。

○議長（生野 征平君） 市長ですか。市長。

○市長（首藤 奉文君） 12月で法的な措置も考えていくというふうに考えておりますが、現在もそういう法的なものについて、このままでは現状維持でありますから、そういう不正な滞納をしている方については、もうどしどし法的な措置をとっていくという方向で今検討させております。

○議長（生野 征平君） 二ノ宮健治君。

○議員（5番 二ノ宮健治君） こないだも言ったんですけど、税とか国民健康保険とかいうのは、その仕事の状況とかによっても変わってくると思うんですけど、これはあくまで使用料なんです。だから、こういうものがもう当たり前になっていったら、大変な世の中になるんじゃないかと思えます。もうこれ以上突っ込みませんが、ほんとに、なぜそういうことになっているか、そういうものを分析をしながら、ぜひ取り組んでいただきたいと思っています。

それから、今度の重点施策の中で農業振興です。先ほどいい回答をいただきました。12月議会でこのことについては質問いたしました。そのとき、平等になるようにそろえていきたいと市長回答がありまして、今回そういうぐあいになっていただいて大変うれしく思っています。由布市が今まで15%、特にそのときに出したのが国東の7.5%の数字を出したと思っています。これは、農業用水の地元負担金の率です。このことについては昨日、農政課長に聞いたら、いろんなケースがあって簡単には答えられないということでした。そういうことで、市長に確認なんです、その15%を特に農業排水については国東並みの7.5%にするということですか。農政

課長。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） 農政課長です。お答えいたします。

水路などの施設の改修や改良を行う中山間整備総合整備事業や集落基盤整備事業は15%から5%に、それから1度補助金がつぎ込まれた1次改良後の施設の更新や保全対策に取り組む維持管理適正化事業やストックマネジメント事業などは10%に地元負担率を変更したいというように考えております。

それから、そのことによって農家負担の軽減に努めていきたいというように考えております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 二ノ宮健治君。

○議員（5番 二ノ宮健治君） よくわかりました。結局、新しい水路の改修等については15%が5%になるという理解でいいんじゃないかと思います。地元の人にすぐ報告をしたいと思えます。大変喜ぶんじゃないかというぐあいに思っています。

あとは、指導員・改良普及員、それから地産地消係、大変言い方は悪いんですが、ブランド化推進協議会。すごい鳴り物入りで入ってきましたが、余り私目に見えた効果が薄かったんじゃないかと、残念でたまりません。これは、やはりどういう人を配置をして、どういう専門家を配置をして、どういう目的であるかということがぴしゃっとしとらんと、これはなかなかうまくいきません。特に、どういう人を置くのかとか改良普及員についてはどういうところから人をお願いするのか、そういうことについてぜひ研究をして、同じ轍を踏まないようにお願いしたいというように思っています。

次に、健康立市です。

このことにほんとは時間をかけたかったんですけど、もういろんなところで出てきました。市長は、先ほど、全ての職員を横断的に、総合的に取り組むということでした。何でこの健康立市、健康立市と私言うかという、先ほどいいましたように市のスローガンはあるんですけど、ほんとに市民の人がどういうまちにしていこうかというのが見えない。ところが、健康立市という構想は目に見える。今お手元に、資料3です。健康立市に向けて。これ由布市総合計画第3期実施計画から思いつくままにと。私、暇だったんでつくりました、じゃないんです。何でこれつくれたか、市長、わかりますか。お答えください。

○議長（生野 征平君） 二ノ宮健治君。

○議員（5番 二ノ宮健治君） いろいろ答え方があって、済みません。ちょっと急だった。簡単に言えば、あらゆる課に横断的にということ。どちらかという、健康というすぐ福祉とか、体育とかその辺で捉えるんですけど、これまだ拾えばいっぱいあります。これ3期の実施

計画、こないだいただいたやつの中からじゃっち拾い出しました。それで少し整理をしました。恐らく専門家の部課長で見たら、何かこげなん、まだ足らんのかなというようなこともあるかと思うんですけど、先ほどもいいましたように健康づくりのためにオタワ憲章というのがあるそうです。最近何か健康のじょう引いてしよるんですが、その中に前提条件として8つありました。平和、住居、教育、食糧、収入、安定した環境、持続可能な資源、社会的公正と公平、これが健康づくりのための条件だそうです。

ということは、市の中のまちづくりの大きな柱になる。まだ言えば、健康ということをそれぞれの施策の中に入れてすれば、新たなものをつくるんじゃないかと、少し工夫をすることによってできるんじゃないか。もちろん新たなことはしないと悪いんですけど、そういうことについて市長、どう思いますか。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） まさにそのとおりでありまして、この市民の住みよさ日本一じゃないけれども、一番健康で、そして住みなれたところで生涯を送れると。そしてお互いに楽しく生活できるというのはこれしかないと思っています。それは今言うように、この横断的に全ての面で取り組むことによって、ほんとに豊かな健康生活が送れるというふうに私は認識しています。一番いい運動であると思っています。

○議長（生野 征平君） 二ノ宮健治君。

○議員（5番 二ノ宮健治君） 2つだけお願いしておきます。

1つは、福祉とか体育関係とかだけに任せない。やはりどうせするなら、例えば副市長をトップに据えるぐらいの覚悟でやらないと、また鳴り物入りでしぼんでしまうんじゃないかと心配しています。これはずっと見届けていきたいと思っています。

それからもう一点は、やはりマンパワーです。今回について2名の保健師を新たに雇用していただいております。大変素晴らしいことです。しかし、それでは原課といろいろ話したんですけど、到底足りない。やっぱり人の力が要ります。この2点について、市長、特にお願いをしておきます。

それから、いつも時間に追われて走り走りになる。庁舎方式です。庁舎方式については、1つだけひっかかったのは、この間いただいた計画書の中で、庄内の庁舎が2階建てになるということです。2階で間に合うのかなと。これは今度7月の20日に大分市にできるホルトホール大分、見たことあるかも知れませんが。すごい施設です。やっぱり市民の夢が全部詰まっていますね。図書館があったり子どもルームがあったり。だからこんなのをつくれとはいいいません。問題なのは、やっぱりどうせつくるなら、さっき財政課長に試算をしてもらったんですが、例えば10億円、10億円金をかけたときに、合併特例債をつければ95%の70%が帰ってくるわけです。

ところが、それを過ぎて一般単独債で借ったら100%、自分たちの金です。だからそういうことも考えながら、3年、5年延ばすことがどうかと。その先で10億円という一般財源を出せるかというとなかなか難しいんじゃないかというぐあいには思っています。だからこれは、どうせつくるんなら、例えば庄内の町民になって考えたときに、今は図書館が不便です。もう昔から。だからそのホールの中に図書館をつくるとか、いろんな夢があるんじゃないか。その辺も加味して後で増築をするようなことのないように、特に今からいろんな設計をしていくと思いますが、その点をお願いしておきます。

最後、幼稚園のことです。

先ほど、特に挾間幼稚園のことについて、事が始まっておりました。25年から27年に新しく新築をしてくれるということで、大変喜んでます。この間、発表会に行ったんですけど、父兄が入られません。外で寒い中を見ているような状況、それからもうトイレはめちゃくちゃです。だから、一日も早い改修をお願いしたいし、たとえば言えば、他の庄内町の幼稚園にホールがないんです。それは、今まで町の行き方だったと思うんです。挾間は谷でも、石城幼稚園の小さなところでも立派なホールがあります。簡単に言えば、家で、居間でしよるのを、ようい寝るけん布団しけというようなものらしいです。だから大変なことです。だからそういうこともやっぱり本当に現場のことを知っていただいて、考えていただきたいと思っています。

それから、専任園長制というのは二通りあります。1つはさっき市長が言われたように、常時園にいるということで、いい結果が出る。しかし、今一番大切なのは、幼稚園と小学校の連携ですか、その辺がちょっと薄れるんじゃないかと聞いたんですけど、学校教育課等に聞いたら、いやそういうことはない、ぴしゃっとうまく連携がとれているということで、安心をいたしました。

それから最後、小一プロブレムについてちょっと入ります。

幼稚園の先生方と話すときに、発育段階での障がいなどについてお聞きをしました。ちょっと言葉でうまく言えないんですが。そういう中で、すぐに県の取り組みとか由布市の取り組みを調べてみたら、由布市が一番進んでいました。それと、このことについては一般質問でやるようなものじゃなくて、教育民生常任委員会の中でもう少しじっくり議論をして、そして少しまとめて、そして来期でもやれたらやりたいというように思っています。

ただ、2つだけお願いします。

1つは、人材育成です。そのために、保健師なんかは、福岡に行ったら土日私費で行ってるそうです。それはどこの町、どこの市でも同じだと思うんです。今、新しくそういう制度が変わる中で、それでぜひ大分県の市長会の中で、大分県の中で金を出し合ってそういうものができるようにしていただきたい。

それと、これも健康立市の中に1つ入ります。だから、そういうことで人員の増でお願いしたい。

それからもう一点は、教育と民生。私なんかを見ると一緒のように見えるんですけど、もう別々の縦組織です。そういうことで、その辺について市長、ぜひ取りこぼしのないようお願いをいたします。

また走り走りになりましたが、これで私の一般質問を終わります。いよいよ平成25年度がスタートいたします。そして、先ほどいいましたように、ことしの10月には市長も私たち議員も市民の皆さんの審判を受けなければならないと思っています。4年間という区切りの中で、残された期間を、私もやり残したことを整理し、一区切りできるように頑張っていきたいと思っています。市長もぜひ、由布市百年の大計に立っているような問題があります。これを勇気を持って、そして市民のために先頭に立って頑張ってくださいよう祈念いたしまして、大変簡単ですが質問を終わります。どうもありがとうございました。（拍手）

○議長（生野 征平君） 以上で、5番、二ノ宮健治君の一般質問を終わります。

.....

○議長（生野 征平君） ここで、暫時休憩します。再開は16時とします。

午後3時45分休憩

.....

午後4時00分再開

○議長（生野 征平君） 再開します。

次に、13番、瀧野けさ子さんの質問を許します。瀧野けさ子さん。

○議員（13番 瀧野けさ子君） 13番、瀧野けさ子でございます。議長の許可をいただきましたので、通告順に従いまして、ただいまから一般質問をさせていただきます。午後の最後ですが、どうぞよろしく願いいたします。また、傍聴の方も、最後までいてくださいますとありがとうございます。

きょうは九州北部に春一番が吹きました。この由布市にも春一番が吹き、春を告げる、春到来と、何か明るくなるようなそういう気持ちになりましたが、東日本大震災ではお亡くなりになられた方はことしで3回忌を迎えることとなります。早いもので2年がたちました。お亡くなりになられた方の6割を超える方が高齢者であった。それと障がい者が亡くなったのは健常者の2倍であった。そういうこともしっかりと私たちの教訓を得ながら、由布市の安心・安全なまちづくりにと、つくっていききたいと思います。そういう意味で、少しきょうは調べてきたことがありますので、皆さんに聞いていただきたいと思います。

また、ことしは1923年の関東大震災から90年の節目を迎えます。東京大学地震研究所教

授の平田先生は次のように話されております。「大きな震災はたまにしか起きないように思われていますが、実は明治の時代までさかのぼってみると、日本国内で1,000人以上が亡くなった地震、津波は120年間に12回ありました。これは10年に1度起きていることになります」と、このように言われております。私は、10年に一度と言われましてもイメージがわかかなかったのですが。また、平田先生はこのようにも言っております。「地震は決して規則的に起きているわけではありません。1000年くらいの単位で見ないと地球の自然現象を理解するには足りないのかもしれませんが」。ここからが大事なのですが「行政関係者や政治家は、過去にこれだけ繰り返し大きな地震が起きていることを知ってほしいと思います」と。

そこで、参考までに調べてみました。1,000人以上の死者、行方不明者を出した地震、津波。過去122年前、1891年に濃尾地震、死者7,273人。1896年、これは明治29年、明治三陸地震、死者2万1,959人。1923年、関東大震災、死者・不明者10万5,000人余り。1927年、北丹後地震、死者2,925人。1933年、昭和三陸地震、死者・不明者3,064人。1943年、鳥取地震、死者1,083人。1944年、東南海地震、死者・不明者1,223人。1945年、三河地震、死者2,306人。1946年、南海地震、死者1,330人。1948年、福井地震、死者3,769人。1995年、阪神淡路大震災、死者6,434人。2011年、東日本大震災、死者1万8,131人。これは気象庁のホームページなどから作成したものを参考にしたものであります。

このような時代が来て、考えなければいけないということから、これからは由布市も少子高齢化が進む中であっても、市民全員が健康で自助・共助・公助を総動員して、防災・減災力を強化していかなければならない、そういう社会になったことを自覚しなければなりません。

国では、2013年度新年度予算を既に決めておかねばならない時期ですが、昨年末の衆議院総選挙で政権交代が行われたため、2012年度の補正予算がやっと成立したところです。2013年度予算は1月29日に閣議決定されましたが、これから審議され、ゴールデンウィーク前後くらいに成立の見込みとお聞きしております。が、その位置づけは、15カ月予算と位置づけ、2012年補正予算と連続的な編成として経済再生への切れ目のない対策が実行されると思われまます。そのような中での地方自治体の予算編成も緊張の中で対応されたことと察します。市長並びに行政職員の方々には、日ごろから市民の福祉向上と安心・安全の暮らしのまちづくりのため日々御尽力をいただいていますことに心から敬意を表します。

また、新年度予算は、前年対比6.2%の増、174億770万6,000円となっておりますが、この財政の厳しい中にもかかわらず従来の市長の重点5項目施策に加え、特別重点枠として、1、農業振興、農業所得向上対策。2、防災・減災対策。3、健康増進を基調にした健康立市推進の3施策を優先的に予算配分していただいたことに対し、感謝とお礼を申し上げます。

特に、健康立市については、昨年3月に一般質問をさせていただきましたが、単に私は素朴に、皆さんが健康で、そして医療費が、介護保険が高い、後期高齢者医療の保険料が高い、そういう庶民の苦しみを聞くにつけ、ああやっぱり健康で長生きし、そして医療費も下げられたらどんなに明るい由布市になるかな、そういう素朴な思いから提案させていただいたのですが、行政の福祉事務所長初め、また市長の御理解も得て、担当職員を初め皆さんがいろんなことを事業に展開していただき、3月24日には健康立市宣言をしていただけたという、こういう運びになったことに対して、ほんとに心から感謝申し上げたいと思います。市民の皆さんも大変喜ぶと思っております。

前置きはこれくらいにして、今回の私の質問は、大きく分けて4項目あります。そこでお尋ねいたします。

まず1つ、2012年度補正予算並びに2013年度予算に関する主要事業は。特に、2012年度補正予算と新年度に連動する事業は何かあるのかということです。

その中で細かくいきますと、地域の元気臨時交付金の使い方は。

次に、防災・減災のための計画的な使い方は。

次に、公共の建物に対する白書が今年度中と通告に書いたんですが、9月の一般質問の市長の答弁では、今年度中に財産台帳の電算化を終えて来年度中に白書を作成というふうに書いておりましたので、ちょっとここは今年度中というのは来年度と誤っていただければと思っております。それをどのように生かしていくのか。そしてまた、橋梁などの耐震を含む管理、見直しも含め計画の進め方でアセットマネジメントの考え方は。

次に、2013年度からヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン、子どもの。それから子宮頸がんワクチンが予防接種法改正で定期接種となります。これは9割が国が負担いたします。妊婦健診の公費助成も、従来は補正予算で基金事業の延長を繰り返してきましたが、2013年度以降は恒久的な仕組みへと移行いたします。2013年度予算は、国会ではいまだ成立していませんが、由布市としての4月からの対応をお聞きしたいと思います。

次に、通学路の安全対策です。

今回の補正予算並びに25年度当初予算に防災・安全交付金が新たに計上されていると思えます。この交付金は、社会インフラの総点検や維持補修に使えるほか、通学路の安全対策にも支援できるようにお聞きしております。昨年、全国的にも通学路の安全のため総点検をしていると思えます。また、それは全て公表をされていると思えます。そこで伺います。

由布市内の万全の安全対策をお願いいたしますが、その計画がありましたら具体的にお聞きしたいと思います。

次に、小松寮の民営化について伺います。

障がい者が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指し、障害者自立支援法が平成18年4月から施行されました。これまでの障がい福祉施設は、障害者自立支援法に基づき、障がい者が入所施設で24時間暮らすといった従来のサービス提供のあり方を見直し、日中活動の場と居住の場を区分することで障がい者の地域生活移行をより推進する方向を目指すとされました。しかし、民主党への政権交代となり、平成22年6月には、応益負担を原則とする障害者自立支援法を廃止し、障害者総合福祉法の制定に向け、25年——ことしの8月までの施行を目指すと決められていましたが、昨年12月に政権交代となり、廃止ではなく、名称は変わり、また運用方法が変わったものと思っております。

県内の公の施設は全て民営化され、小松寮も、当初はその方向へと検討の話し合いがなされる中での政権交代でありましたので、国の動向を見るということでそのままになっております。

そこでお伺いたします。行財政改革の一環としてその時期の捉え方はどうなのか。そして、今後の由布市としての考え方は。そしてさらに、県内では由布市だけが民営化ができていないが、現状をどのように感じているのかをお聞きしたいと思います。

最後に、災害に強い人づくりについてお伺いたします。

近い将来、南海トラフを震源とした地震発生が予想されていることや、梅雨前線豪雨災害の対応の検証を踏まえ、防災・減災対策の実施や地域防災計画の修正など、災害に強い由布市づくりが喫緊の課題です。そのためには、災害に強い社会資本整備のほか、災害に強い人づくりや災害に備えた地域づくりが必要です。昨年、防災士の研修を行い、由布市も多くの防災士が誕生いたしました。少しでも防災思想の普及につながり、地域自主防災のお役に立てるものと感じておりますが、今後のことをお伺いたします。

1つは、新任防災士の能力向上のための研修や、より専門的な防災士を目指すためスキルアップ研修の開催が必要と感じておりますがどうでしょうか。

2つ目、今後も防災士を多く育成することが大切だと思います。それは、人材は財産だからです。その計画がとおりかどうかお伺いしたいと思います。

以上で壇上での質問は終わりますが、再質問は自席にて行いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。（拍手）

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） それでは、13番、湊野けさ子議員の御質問にお答えをいたします。

最初に、国の平成24年度補正予算において創設されました地域の元気臨時交付金ですが、この交付金は、緊急経済対策において追加される公共投資の地方負担額の8割程度を自治体に還元するというものであります。大変ありがたい交付金ですが、残念なのは、由布市でこの交付金の算定対象となる事業は、今回の一般会計補正予算に計上しております道路ストック

総点検事業1,100万円のみとなっております。もっと多くの事業が対象となることを期待しておりましたが、今回の国の補正予算では、対象事業を限定しております、このような結果となっております。

交付金としては約440万円程度が見込まれておりますが、交付額が決まり次第、平成25年度予算において補正を行い、公共事業の単独分に充当したいと考えております。

また、防災・減災の事業につきましては、今のところ該当する事業はございません。

次に、公共施設の白書についてであります。公共施設管理の基本情報となる財産台帳の電算化が今年度で完了いたします。平成25年度以降は、この基本情報に対して、施設の運営状況、利用実態、コストなどさまざまな角度から検証を行いまして、十分な調査研究を行った上で公共施設白書を作成してまいりたいと考えております。

次に、道路アセットマネジメントについてであります。道路施設である橋梁やトンネルなどの点検を行いまして、健全度を把握して、その程度に応じた維持修繕をするなど、予防保全型の管理を考えております。

また、ヒブワクチンなどの接種、妊婦健診の公費助成についてであります。ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン・子宮頸がん予防ワクチン接種の公費助成と妊婦健診の公費助成は、平成25年度も引き続き行う予定で、関連予算を新年度予算に計上しております。

次に、通学路の安全対策であります。通学路で市道に関する要望箇所は、昨年の11月初めに建設課で点検を済ませたところあります。防護柵設置や路面表示要望などで緊急を要する箇所は既に対策を済ませております。道路の拡幅や改良などにつきましては、平成24年度は中村柏野循環線など5路線で、総合交付金を財源として事業を実施しております。また、25年度当初予算でも事業予算を計上しているところあります。

小松寮の民営化につきましてであります。由布市行財政改革実施計画により、民間移譲検討の対象施設となりましたことから、平成21年に関係者で組織する民営化検討委員会を設置して調査検討を行ってまいりましたが、障害者自立支援法の成立によりまして、障害者福祉制度の抜本的な見直しが検討されたことから、制度が落ちついた段階で再度総合的に検討するのが望ましいとの報告をいただいたところあります。

その後、第2次由布市行財政改革実施計画でも民間移譲検討の対象施設とされ、障害者自立支援法も障害者総合支援法に改正され、制度も落ちついてまいりましたので、平成25年度より再度民営化検討委員会で民営化に向けた協議と検討をしていただく予定であります。

次に、新任防災士の能力向上のための研修についてであります。平成25年度に大分県で自主防災活動促進のための防災士活動環境整備事業を実施いたします。その中に、新任防災士の活動環境の整備と資質向上を目指すスキルアップ研修の計画がありますので、その研修に参加させ

たいと考えております。

防災士の養成につきましてですが、大分県では、昨年のように県内各市町で防災士養成講座は行わず、1会場のみで開催するとのことでありましたが、県の防災対策幹事会の会議で、昨年並みの各市町単位での開催が要請されました。この要請によりまして、開催方法を協議しているとのことでありますので、その結果により対応を検討してまいりたいと考えております。

以上であります。

○議長（生野 征平君） 渕野けさ子さん。

○議員（13番 渕野けさ子君） 今、地域の元気臨時交付金の使い方はということで、由布市では1,100万円程度であるということでお伺いしました。

今回の2012年度の大枠の国の補正予算は13兆円という大きな補正であります。もちろん、東日本大震災の原発事故避難民のことも入っておりますし全体的なことも入っておりますが、それにしても地域の元気臨時交付金、これだけでも全国で1兆3,980億円国であるんです。これは先ほど市長も言われたように、地方負担の公共事業に対する8割をカバーする地域の元気臨時交付金というものでありますけども、これのことについては、算定方法とか私はわからないんですが。新聞等で見ますと、公共事業のばらまきはいけないので、しっかり地方自治体で計画を立てて、そしてその計画を国に出して、その計画にのっとってそういうものが給付されるというふうに聞いておりましたが、国から何かそういう防災・減災に対する計画を出しなさいと、そういうようなものがあるというふうなことはないのでしょうか。誰に聞けばいいのでしょうか。

○議長（生野 征平君） 財政課長。

○財政課長（梅尾 英俊君） 財政課長です。御質問にお答えいたします。

緊急経済対策につきましては補正予算で措置されましたが、実際のところ、各課にこの補正予算による事業を照会しましたが、対象になる事業が先ほど市長が説明しました道路ストック総点検事業でございます。この事業を行うことによって440万円の交付金がいただけるようになるんですけれども、今後はこの440万円を充当する実施計画というものを策定しまして、それを県のほうに提出しまして、それが認められたときにこの交付金を充当した事業ができるというような流れになっております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 渕野けさ子さん。

○議員（13番 渕野けさ子君） 実は、県も余り詳しいことがなかなか、算定というか、わからない部分もあるのかと思うんですが。それでは、ちょっとお聞きしたいんですが、防災安全対策交付金は全国で5,498億円とかあるんですけど、学校耐震化老朽化対策については3,272億

円というふうにあるんですけど、そういうものに対しての各地方自治体に対するそういうものも、由布市には何もないわけですか。対応するものがないんですか。

○議長（生野 征平君） 財政課長。

○財政課長（梅尾 英俊君） それも含めまして、各担当課に照会をしたところですけども、現在のところは該当なしということで回答をいただいております。

○議長（生野 征平君） 瀧野けさ子さん。

○議員（13番 瀧野けさ子君） 耐震化対策も、先ほど市長の答弁の中で、学校の小・中学校は平成28年度までに全てやり終えるというふうに二ノ宮議員の質問でお答えされておりましたけれども、県としては27年度で100%なんです。これは私、前々回の一般質問のときに言ったと思うんですけど、すべきことはたくさんあると私は思っているんですけども、それがなかなか上がってこないというのはどういうことなのかなというふうに感じております。

それともう一つお聞きしたいのは、橋梁などの耐震を含む管理、見直しも含めて計画の進め方でアセットマネジメントの考え方はと今お聞きしたんですけども、平成23年度までの由布市橋梁長寿命化修繕計画策定業務というのが委託されていて、由布市の橋梁全てそれで年代別から調べているんです。それを23年度つくっているのに生かし切れてないんじゃないかなと、私は感じました。

それでお聞きしたいんですが、橋梁のことで1958年、庄内橋、210号線の右からあるんですけども、庄内橋というのがあるんですが、これは1958年につくられたもので、私も行って写真を撮ったりいろいろしたんですけど、下がもうほんとに崩落して、あ、これはもう何とかしないと危ないなと思っておりましてところ、庄内町のちょっとよく覚えてないんですけど、あの橋はとても大事な橋なんだって。水道管も一緒に通っている、走っているから、あれはもう早くしないといけないというふうにお聞きしましたけど。これは改築といいますか、そういうふうな、建設課長、予定に入っていますか。

○議長（生野 征平君） 建設課長。

○建設課長（麻生 宗俊君） 建設課長でございます。お答えをいたします。

議員御指摘の庄内大橋につきましては、既に今年度工事の予算を確保しております、工事自体は発注をしております。地元の調整がちょっと関係でおくれておりますが、事業はやるようにしております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 瀧野けさ子さん。

○議員（13番 瀧野けさ子君） 今年度やるということは、財源は国の防災・減災対策のじゃなくて、違う財源ですか。

○議長（生野 征平君） 建設課長。

○建設課長（麻生 宗俊君） お答えいたします。

今回の防災・安全交付金につきましては、国の補正で決まったものでございます。私のほうの計画をしていた分は、社会資本整備総合交付金というのがございまして、それを財源として事業を行うものでございます。

○議長（生野 征平君） 淵野けさ子さん。

○議員（13番 淵野けさ子君） そして、1951年に粕掛橋というのもあるんです。由布高校の裏から挟間に抜ける裏のほうにあるんですけども、そこも行ってみました。もう全く通るのに怖い状態で、そのままに放置されております。そしてまた、主などしか見てないんですけども、1940年、もうこれは相当昔にこれ上淵橋というんですか。私これ見にいったんですけども、ほぼ使われていない。それは新しく代替の橋ができていますからだと思うんですけども、それもそのまま放置されている。私がなぜアセットマネジメントの考え方はって聞いたのは、例えばそういう橋のことも建設部長並びに財政、どこまでかわかりませんが、建設部長、建設課長、総務部長まで入るのか副市長まで入るのかわからないんですけども、現地にそういう橋がたくさんあるということを現地で、自分の目で見ておられますでしょうか。

○議長（生野 征平君） 建設課長。

○建設課長（麻生 宗俊君） お答えいたします。

橋梁につきましては、市内に274橋がございまして、点検は21年度、22年度で全て済ませております。議員御指摘のように、古い橋が完成後50年以上経過しているような橋が4割程度を超えているような状況もございまして、橋の重要性を見ながら、同じような管理の方針で全部の橋を管理するというのは今無理な状況でございまして、橋の重要性を見ながら維持管理をしていきたいということで、現地等は全て把握しておりますので、今後、順次補修の予算を計上していきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（生野 征平君） 淵野けさ子さん。

○議員（13番 淵野けさ子君） それで、もう廃止にしてもいいようなものもあろうかと思えます。そういうのも含めて、今後見直しも含めて総合的に計画を立てていただきたいというふうに思うんですが。先ほど通学路の安全対策の中でも、建設課が点検しているというふうに、これも言われておりましたけれども、建設課だけに任せるんじゃなくてやはり総合的にそういうものを、中長期にわたっての計画を私はつくるのが絶対に必要と思うんですけども。例えば粕掛橋なんか1951年ですから、もう62年たっています。あれをあのまましておくのかということも心配ですし、そこでもし何か事故等あったときどうするのかということも心配です。

そういう中で、なのでこれアセットマネジメントにこだわるのではないんですが、それにかわ

るものでもいいんですけども、そういうものを立ち上げてしっかり計画を立てて、計画的にしなければいけないというふうに私は思うんですけど。そのアセットマネジメントについての考え方をお聞かせください。（拍手）

○議長（生野 征平君） 建設課長。

○建設課長（麻生 宗俊君） アセットマネジメントという考え方でございますけど、資産の管理運用ということで、道路施設を資産と考えて管理運用するという考え方でございます。市長が申されましたように、予防保全型の管理を考えているということで、致命的な損傷が生じないうちに、損傷程度が軽いうちに補修などをやりながら、今ある資産を延命させるというような考え方になろうかと思えます。

○議長（生野 征平君） 淵野けさ子さん。

○議員（13番 淵野けさ子君） 課長が今言われたことが、先ほど佐藤郁夫議員のときに、市営住宅の長寿命化計画になると思えます。その保全型、言葉は違うんですけども、修繕をしながら長持ちさせるという、そういう長寿命型計画について、長寿命型改良による効果はどういうものがあると思えますか。これは市長。

○議長（生野 征平君） 産業建設部長。

○産業建設部長（工藤 敏文君） 産業建設部長です。お答えします。

予防型のアセットマネジメントにおいては、維持管理費がその年に集中しない、いわゆる維持管理費の平準化が図れることと、それに対するコスト縮減の効果があると思えます。

○議長（生野 征平君） 淵野けさ子さん。

○議員（13番 淵野けさ子君） そうです。現行では40年程度で改築・建てかえするんですが、技術的には通常の改修よりもグレードの高い改善を行うことによって、70年から80年程度の使用することが可能になると。改築に比べて工事費が安くて、排出する廃棄物量も少ないというメリットもあるんです。近年の教育内容・方法への適応や省エネ化など、現代の社会的要請に応じた整備やライフラインの更新等を実施というふうにあります。

今、盛んに長寿命化による効果ということで、国もそういうふうに公共事業、例えば学校もそうなんですけれども、市営住宅もそうなんですけれども、橋梁等もそうだと思います。そこで、大分市は、今年度から公営施設もマネジメント推進室というのが4月から立ち上がったんです。なので、私が申し上げたいのは、アセットマネジメントにこだわらず、やはりこうした公営のものを、今何で防災・減災というかというと、政権与党変わって、ばらまきに何でもすればいいんじゃないとそういうものじゃないと思うんです。そういうものじゃなくて、やはり今あるものを大切に修繕しながら長く使って、より効果が得られるという、要するにメンテナンス日本というふうに、今それをしなければいけない日本の状況に置かれているのは、地方自治体も同じだと思います。

そういうメンテナンスという思いを位置づけを持っていただいて、その計画なりを立てる。そういう建設課だけではなかなか難しいのではないかと思うんですけども、そういう専門的な分野とか部署といいますか、そういうものも必要な時代に入っていると思うんですけども、市長、それどのようにお考えですか。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 今、そういうメンテとかいろんな部分について専門的な知識とか技術が必要であるというふうに思いますし、これから年を追うごとにそういう老朽化した施設がふえてくるということになると、そういう専門的な見地から、そういうことをする必要があると、そういうマンパワーもいるのかなと思っております。

○議長（生野 征平君） 瀧野けさ子さん。

○議員（13番 瀧野けさ子君） ぜひ、これは由布市の市民の命を守るためのコンクリートですから、そのことも考えていただきたいというふうに思います。

時間がありませんので次にいきますが、2013年度からヒブワクチン・肺炎球菌ワクチン、それから子宮頸がんワクチンが予防接種法改正で定期接種となります。

ここでお礼を申し上げたいんですが、このヒブワクチンの補助制度は、由布市が大分県で初めて地方自治体として補助制度をつくっていただきました。当時、現福祉事務所長が、健康増進課長のときだったかと思います。なかなか県下では珍しかったんですけども、市長の御理解もいただき、大分県で初めてこのヒブワクチンというのに補助制度をいただきました。そして、地方自治体が努力する。そういう中で私たちは国に働きかけ、署名をし、働きかけてこれが定期接種化となったわけです。ですから、地方自治体のそうした勇気のある英断があったからこそ、由布市の英断があったからこそこういう国の定期接種化と結びついたというふうに思っておりますので、ここでほんとに心からお礼を申し上げたいと思っております。

そこでお聞きしたいんですが、定期接種化になりますと9割が国からの負担していただけますが、費用対効果というのはどのくらいになりますか。簡単でもいいんですが。

○議長（生野 征平君） 健康増進課長。

○健康増進課長（河野 尚登君） 健康増進課長です。お答えいたします。

ちょっと古いデータになるんですけども、平成22年5月15日の大分合同新聞によりますと、大分大学の是松教授がおっしゃっていることなんですが、「日本の12歳女子全員に子宮頸がんワクチン接種を助成した場合、将来的ながん抑制効果等を含めまして、費用を差し引いても約190億円の経済効果がある」と言われております。

それから、平成20年に小児用肺炎球菌ワクチンの医療経済効果をワクチン導入簡易シミュレーションソフトで出した数字が残っております。それによりますと、由布市の5歳未満児の

90%が肺炎球菌ワクチンを接種した場合の経済効果は、その費用を差し引いても6,772万円の経済効果があって、県全体では23億円の経済効果があるというふうに言われております。

これらの経済効果のみならず、子どもたちの健やかな成長を促すとともに、病気発症による後遺症などを考慮いたしましても、市民に安心をもたらす大事な事業だというふうに認識いたしております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 渕野けさ子さん。

○議員（13番 渕野けさ子君） ありがとうございます。

そこで、財政課長にお伺いしますが、突然振って済みません。この平成25年度由布市予算の概要の一番後ろに一般的事項で、「なお、補助の打ち切り、負担・補助割合の変更等があった場合は、市において肩代わり負担はしないものとする」とこういう文言が入っております。こういうのは、きょうちょっとお聞きしたんですけれども、緊急経済対策とかそういうものが当てはまるんだというふうに言われておりましたけれども、そのほかに当てはまるものってありますか。

○議長（生野 征平君） 財政課長。

○財政課長（梅尾 英俊君） 財政課長です。お答えいたします。

これに該当するのは、ことしの24年度から25年度の予算において緊急の経済対策で、情報発信の関係でOBSのゆふばん！デラックスを24年度まで実施しておりましたけれども、これが交付金が終了したのと同時に25年度は計上していないというような、こういう事例がございます。

以上でございます。

○議長（生野 征平君） 渕野けさ子さん。

○議員（13番 渕野けさ子君） はい、ありがとうございます。

なぜお聞きしたかといいますと、先ほど経済効果のこともお伺いしましたし、また後の小松寮の民営化についての経済効果も聞いてみたいなど、財政効果も聞いてみたいと思うんですが。児童館の補助制度が国・県なくなって、市もないという形で打ち切りのように聞いております。違うところで経済効果があるのであれば、そういう子育ての環境整備のためにはこれから社会保障と税の一体改革の中で、子育てに関する予算もかなり児童クラブとか児童館に対しての配慮もあるように見受けられるんですけれども、子育てとか環境整備のことにしましては、やはり費用対効果があるものに対しては考えて、随時必要なものには充てていくというようなことでしていただきたいんですけれども、そういうところはどうか。

○議長（生野 征平君） 健康福祉事務所長。

○健康福祉事務所長（衛藤 義夫君） 健康福祉事務所長です。渕野議員さんの御質問にお答えい

たします。

きょう偶然子育て支援課長が見えておりませんが、そういう分を検討させていただきたいと思っております。

○議長（生野 征平君） 渚野けさ子さん。

○議員（13番 渚野けさ子君） 済みません。私も細かい通告に上げていませんので、いろんな今まで一般質問のやりとりを聞いていまして、聞いてみようかなというふうに思ったんですけども。やはり経済効果があるときには、国の定期接種化になったのも、ほかの節約したものがそれに充てられるようになったんです。財務省と厚生労働省と総務省といろんなところで協議をしていただきまして、年少扶養控除の増額部分が多分そういう接種化になったんだと思います。そのように、やはり子育てに対する環境整備のことにしましてはしっかり目を向けていただきたいという私の思いがありますので、今申し上げておきたいと思っております。

その公営施設のマネジメントのことは、これからしっかり頭の中に入れておいてほしいなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

次に、通学路の安全対策で、建設課で点検し対応をしてきたと言われましたが、市内全体で何カ所あって何カ所が対応ができたのか、それを教えてください。

○議長（生野 征平君） 建設課長。

○建設課長（麻生 宗俊君） お答えいたします。

私のほうで点検をした箇所は48カ所でございます。防護柵・ガードレールと路面表示でございますけど、これは緊急に対応する必要があったということで2件しております。これは維持に関するものでございまして、あと改良関係等は市長の答弁にありましたように、今5路線を改良工事を行っております。市長答弁では、中村柏野循環線など5路線とございましたが、そのほかには向原別府線（北方工区）、東行田代線の田代1工区、下市見取線が挟間でございます。挟間が4路線。湯布院の1路線につきましては川西岳本線の舗装事業を行っております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 渚野けさ子さん。

○議員（13番 渚野けさ子君） はい、ありがとうございます。

あと引き続き全体で見ると110カ所あるんですね。いろんなところが。それが48カ所というふうにお聞きしました。緊急度の高いところからいただいているように思います。

次に、小松寮の民営化について伺います。

先ほど市長の答弁では、もう新年度からその検討に入るということでよいですか。

○議長（生野 征平君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（衛藤 哲雄君） 福祉対策課長です。お答えいたします。

検討委員会の再開につきましては、今回新年度予算で関連経費を計上しております。そういうことで、新年度に入りましたら検討を再開したいというふうに考えております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 渕野けさ子さん。

○議員（13番 渕野けさ子君） その準備委員会といいますか、それは前の委員会の委員さんと同じ方がなられるんですか。

○議長（生野 征平君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（衛藤 哲雄君） お答えいたします。

委員会の委員構成につきましては、まず新年度に入りましてから関係課による準備会を開催しまして、それ以降検討していきたいと思いますが、委員構成として保護者会、それから障がい関係団体、それから各種団体を予定しております。そういうことで、前回の方がなる可能性もありますが、新しくなる方もいらっしゃるということになろうかと思っております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 渕野けさ子さん。

○議員（13番 渕野けさ子君） ありがとうございます。

私がしつこくこうして言うのは何でかといいますと、後期高齢者もそうです。障害者自立支援法もそうです。あれはほんと政争の具に使われたと私は思っているんです。悪法だとか、廃止すとか、そういうのを施設の前で堂々と言う議員もいらっしゃいました。私はもっと深く考えて発言していただきたいな、政治家ならばと思って、ずっとこれは思っておりました。なので、由布市が一番おけているんです、民営化になるのが。だから、私はしつこくこうやって聞いているわけですけども、やはり民間でできるところは民間にさせていただくと。それが望ましいというふうに思っております。

1つ聞きたいことがあるんですけども、小松寮の寮長さんはお見えですか。先日の監査委員さんの報告の中で、監査の中で特に留意すべき点が見受けられたと指摘されておりますね。梨の売上料の出納事務のさらなる厳格化や、利用料の出納事務の一部不適切な処理が見受けられたと。利用者預り金管理規程と併せての改善を講じられたいとの指摘があったというふうに書かれておりましたが、これはどういうことなんでしょうか。

○議長（生野 征平君） 小松寮長。

○小松寮長（一法師恵樹君） 小松寮長です。お答えいたします。

先日の監査につきましては、梨の売り上げにつきましては、個人の売り上げ分が漏れていたということで、帳簿を提出ができなかったためその分が引かれていたということでございます。それにつきましては、その後調整をしておりますので。今後は監査委員さんの御指摘のとおり、出

納事務の厳格化については慎重に努めてまいりたいと思っております。

もう一件、利用料の出納事務についての一部不適切な処理ということでございますが、これは利用者の個人負担金を徴収する際に、利用者負担金等請求書兼領収書というのを小松寮独自で発行しております。これにつきましては、財務規則による領収書にすべきではないかという御指摘がございました。これにつきましても、会計管理者と関係部署と今後協議し、改善に努めたいと思っております。

以上でございます。

○議長（生野 征平君） 渚野けさ子さん。

○議員（13番 渚野けさ子君） はい。しっかり指摘のないように運営管理をしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

また、この小松寮の民営化で行財政改革の一環としてどのくらいの費用対効果があるのでしょうか。もしわかりましたら、簡単でよろしいので教えてください。

○議長（生野 征平君） 総務課長。

○総務課長（麻生 正義君） 総務課長です。お答えいたします。

第2次行革の中で民間活力の導入、それから民間移譲の検討ということで項目を上げております。その中で、21年度の決算額は、御参考値でございますが2億9,455万円となっております。この中には、小松寮の人件費等も含まれておるということでございます。

以上でございます。

○議長（生野 征平君） ちょっと総務課長。今答弁にちょっとならんようにあります。もう一度。今あなたは決算額だけを言うたから、費用対効果について幾らくらいあったのかお願いします。

○総務課長（麻生 正義君） 大変申しわけありません。決算額の読み上げでございました。費用対効果というのは、この計画では26年度から実施されるということになっておりますので、まだ民間のほうに移譲されておりませんので、現在の効果額はまだございません。失礼しました。

○議長（生野 征平君） 渚野けさ子さん。

○議員（13番 渚野けさ子君） 要するに、試算をまだしていないからわからないということではないですか。

こういうことを新年度からしっかり、きょうは3月1日ですから、もう新年度ですので、新年度からしっかり対応をしていくということ（「4月」と呼ぶ者あり）4月、ああそや。失礼しました。まだ新年度になってなかった。4月1日から新年度から対応するというのでありますので、しっかり議論をしていただいて、いい方向に持っていただければというふうに思います。

災害に強い人づくりについては、今後もスキルアップ研修のためにしていただくという返事だったと思うのですが。防災安全課長、それでよろしかったですか。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） 防災安全課長です。お答えします。

現在、県のほうが災害に強い県土づくりの推進ということで、この事業をやっているようであります。その中で、24年度に防災士になった人を全員を対象に、2日間の防災士養成研修を行うということであります。そういう中で、これまだ暫定的でありますので、補正予算等で対応していきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 渚野けさ子さん。

○議員（13番 渚野けさ子君） はい、ありがとうございます。

今後も今年度は100名を予定していたんですね。少し足りなかったんですけども、新年度ではまた新たに防災士の養成をする計画はありますか。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） お答えします。

これも県の事業になるんですが、平成23年度までに土曜日、日曜日を3日間かけて防災士の養成講座を行ってまいりました。24年度に限り緊急対策ということで、各市・町で防災士養成研修を行っております。今年度25年度は、もうこれを県が廃止するということになりました。その中で、市長が答弁で言っております防災対策の幹事会、これで各市から、24年度と一緒のような各市町で防災士研修ができないかと、そういうことで要請をしました。その中で、今度環境部長が、そういう要望が多ければもう一度考え直すと、そういうことで今協議をしているようであります。この結果がまだこちらのほうに来ていませんので、その結果が来次第また皆さんにお知らせしたいというふうに思います。

以上です。

○議長（生野 征平君） 渚野けさ子さん。

○議員（13番 渚野けさ子君） 人材は市の財産ですので、防災思想の教育・普及はしていただきたいなと思いますので、しっかり取り組んでいただきたいと要望しておきます。

さて、最後7分になりましたが、きょうは一番最初、市長の立候補の表明をお聞きいたしました。非常に謙虚過ぎて、ほんとに大丈夫なのかなというふうにちょっと私も思ったものですから。みんな人間そうなんですけど、腹満腹ということは、満足ということは自分に対してないと思うんです。合併に対しても、腹八分でもいいから、でも住みよいまちに何とか近づけてもらいたいと。最初からやはり100%望んでいる人はいないと思います。それぞれ価値観が違いますから。ですが、由布市のリーダーは市長でありますから、やはり「僕についてきてください、こういう市をつくりたいんです」というふうに、やはりしっかり安心感のある声と勢いと、やっぱりそう

いうメッセージが欲しいなど。そうであれば欲しいなと思いました。それは、私たち市議会議員も市長と同じ今回改選で選挙があるわけですけれども、それぞれ議員さんも皆さんそうだと思います。市長はやはり由布市のトップですから、由布市民が安心して任せられるな、自分に任せてほしい、そう思えるそういうメッセージを、力強いメッセージをいま一度聞きたいんですけど、どうでしょうか。（拍手）

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 先、選挙というとなにかそういうことでありますから、断言するというのは大変難しいんでありますけれども、これまでの7年、8年は、ほんとに私は全力で市民のために頑張ってきたと。これは自信を持って言えることであります。そして、大変難しい融和をこれまで図ってきて、そしてそれぞれ融和が進んで、恐らく一体感もかなり8年間の間に進んできたとは自負を持っております。そういう状況の中で、ほんとに庁舎を1つにして市民が心を1つにすると。そのためにはどうしてももう一期やって、そして由布市の皆さんが安心してもらえるような、そういう力強い由布市をつくっていきたいという思いでありますけれども、謙虚に、選挙でありますから言ったわけでありまして。思いは市民の皆さんをしっかりと安心・安全なまちにして安心して住んでもらえるような、そういう由布市をつくっていく決意でありますので、よろしくをお願いします。

○議長（生野 征平君） 渕野けさ子さん。

○議員（13番 渕野けさ子君） やっと決意表明らしい力強い決意をお聞きいたしました。やはり同じ例えば「中村さん」と呼ぶのでも、「あ、中村さん、中村さん」と呼ぶのと「中村さん」と呼ぶのとでは、もう振り向く速度も違いますし、相手の集中する気持ちも違いますので。市長は、そう思うのであれば、しっかり、ぶれずに頑張っていたきたいというふうに思っております。

私の質問は以上で終わります。ありがとうございました。（拍手）

○議長（生野 征平君） 以上で、13番、渕野けさ子さんの一般質問を終わります。

○議長（生野 征平君） これで本日の一般質問は全て終了しました。

次回の本会議は、3月4日午前10時より、引き続き一般質問を行います。

本日はこれにて散会します。御苦勞でした。

午後4時57分散会
